

(2) 都心の観光資源

1) 観光施設

都心及び縁辺部にある主な観光施設の利用者数を下表に示す。

新型コロナウイルスの大きな影響を受けていない 2019 年度の各施設利用者数は、「北海道庁旧本庁舎」が最も多く 412.7 千人、次いで「テレビ塔展望台 (382.7 千人)」、「時計台 (244.8 千人)」、「JR タワー展望室 (222.8 千人)」の順となっている。

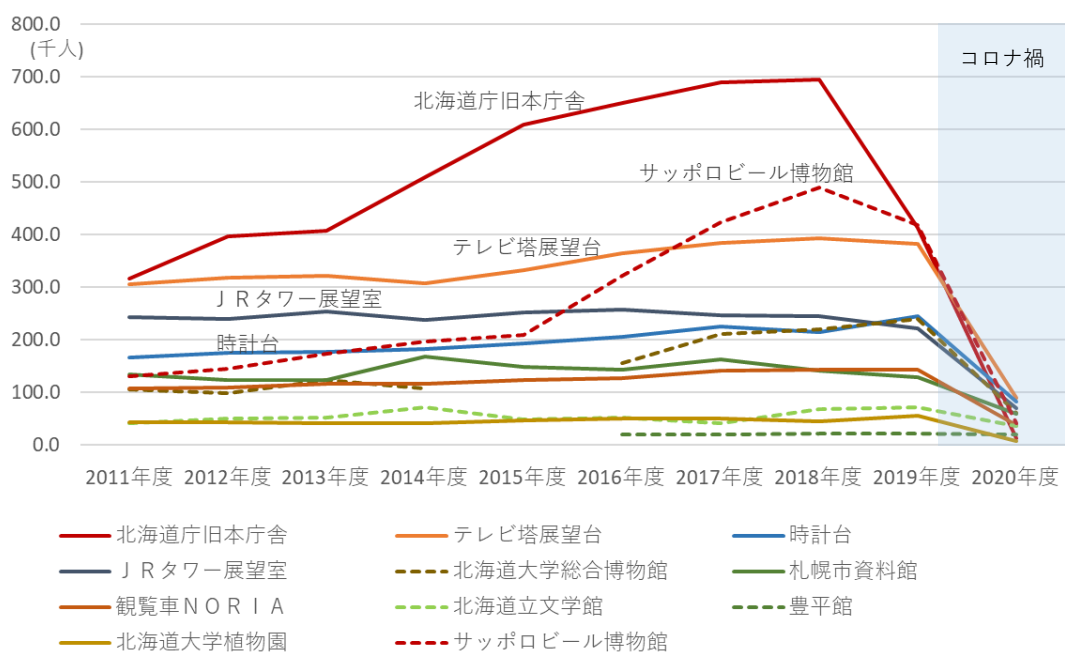
都心縁辺でみると、「サッポロビール博物館」で 418.6 千人、「北海道大学総合博物館」で 239.7 千人と、都心内の主要観光施設と同等の利用者数がみられた。

施設名		2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	前年 度比
都心	北海道庁 旧本庁舎	317.3	397.4	408.5	510.4	610.2	650.4	689.6	695.9	412.7	13.1	-96.8
	テレビ塔 展望台	306.8	317.6	322.4	308.4	332.1	364.3	383.8	393.8	382.7	90.6	-76.3
	時計台	167.1	175.8	176.7	183.1	193.8	205.0	224.8	215.5	244.8	82.0	-66.5
	J R タワー 展望室	242.9	240.5	253.8	238.0	252.9	258.0	247.7	245.5	222.8	71.0	-68.2
	札幌市 資料館	134.8	124.1	124.0	167.7	149.4	142.9	163.0	140.8	129.2	60.0	-53.5
	観覧車 N O R I A	107.7	109.6	115.7	116.1	123.7	126.6	141.2	142.8	142.7	38.0	-73.4
	北海道大学 植物園	43.0	43.0	42.0	41.0	47.0	51.4	50.2	44.5	55.0	7.0	-87.3
都心 縁辺部	サッポロビ ール博物館	130.6	145.5	173.2	196.8	209.8	321.8	422.9	490.8	418.6	41.7	-90.0
	北海道大学 総合博物館	105.6	97.9	124.0	107.9		156.0	211.8	220.5	239.7	60.8	-74.6
	豊平館	12.9					19.8	20.0	21.5	21.1	19.5	-7.2

■は休館期間を含む／2020 年度は新型コロナウイルスの影響で各施設臨時休館あり

出典：札幌市「札幌の観光」

2011年度からの施設利用者数の推移をみると、新型コロナウイルスの影響を受けるまでは「北海道庁旧本庁舎」「サッポロビール博物館」「北海道大学総合博物館」において、増加傾向がみられた。



2) イベント観客数

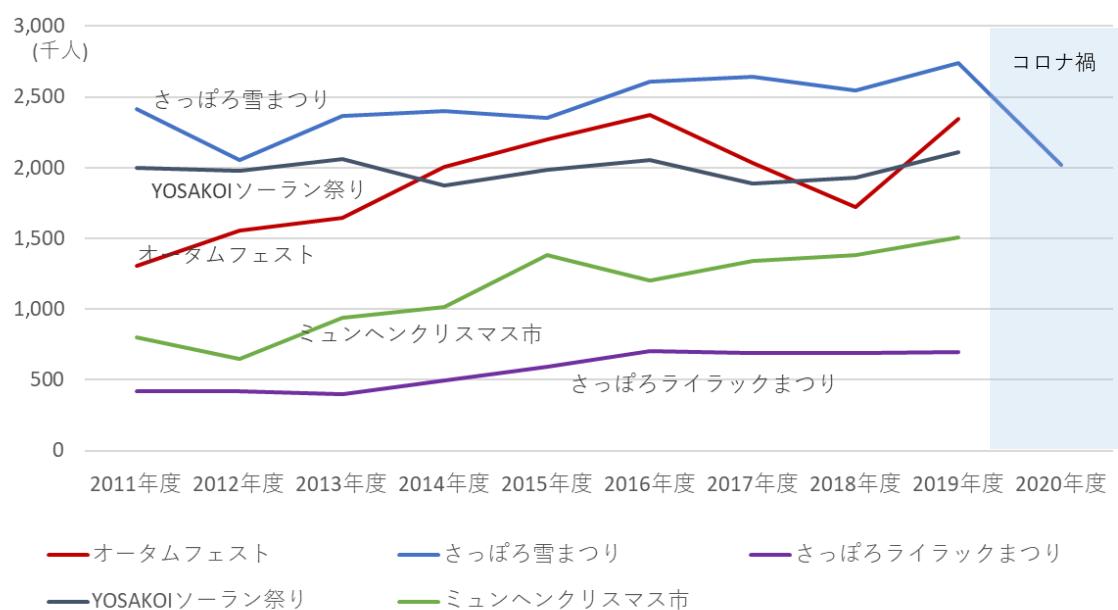
大通公園で行われる主要イベントの観客数をみると、新型コロナウイルスの影響を受ける前の2019年度では「さっぽろ雪まつり」が最も多く2,737千人、次いで「オータムフェスト(2,346千人)」、「YOSAKOIソーラン祭り(2,111千人)」などの順となっている。

表 イベント観客数(千人)

イベント名	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
さっぽろ雪まつり	2,416	2,054	2,367	2,402	2,350	2,609	2,643	2,543	2,737	2,021
オータムフェスト	1,306	1,558	1,647	2,009	2,203	2,372	2,032	1,720	2,346	中止
YOSAKOIソーラン祭り	2,000	1,980	2,060	1,875	1,987	2,054	1,888	1,929	2,111	中止
ミュンヘンクリスマス市	804	650	940	1,019	1,381	1,200	1,341	1,380	1,505	中止
さっぽろライラックまつり	419	420	398	499	593	704	691	687	699	中止

出典：札幌市「札幌の観光」

2019年度までのイベント観客数の推移をみると、さっぽろ雪まつり、ミュンヘンクリスマス市、さっぽろライラックまつりでは増加傾向がみられていた。

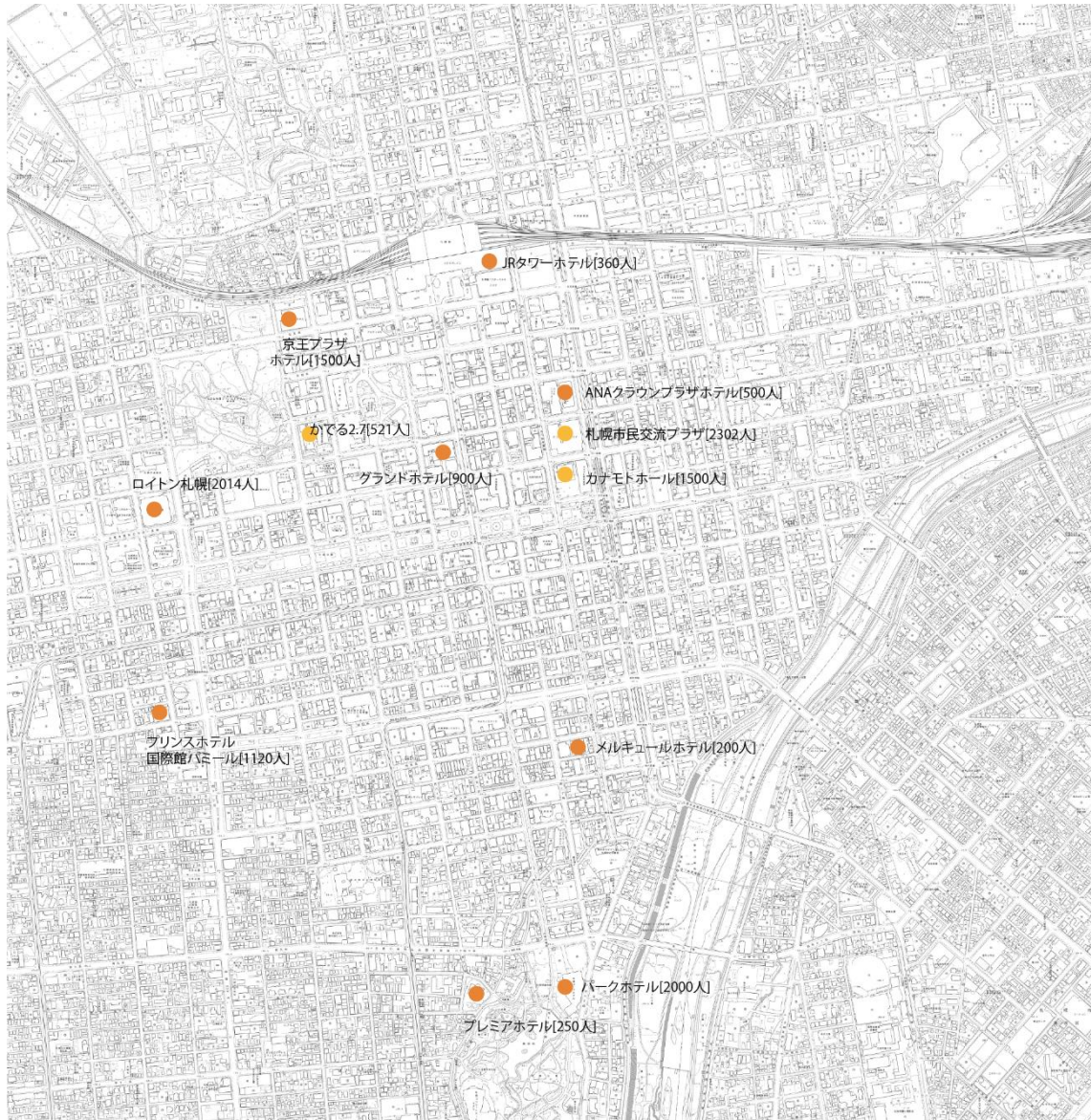


3) MICE 施設

公益財団法人札幌国際プラザ・札幌コンベンションビューローのウェブサイトに掲載されているコンベンション施設のうち、都心に位置するものを下表に示す。

立地状況を見ると、札幌駅～大通公園に集まっていることがわかる。

区分	No	施設名	ホール面積	収容人数 (スクール形式)
公共施設	1	札幌市民交流プラザ	—	2302 人
	2	カナモトホール (札幌市民ホール)	—	1500 人
	3	かでの 2・7 (北海道立道民活動センター)	—	521 人
民間ホテル	4	JR タワーホテル日航札幌	304 m ²	360 人
	5	京王プラザホテル札幌	1000 m ²	1500 人
	6	ANA クラウンプラザホテル札幌	512 m ²	500 人
	7	札幌グランドホテル	760 m ²	900 人
	8	ロイトン札幌	1607 m ²	2014 人
	9	札幌プリンスホテル	1000 m ²	1120 人
	10	メルキュールホテル札幌	205 m ²	200 人
	11	札幌パークホテル	1165 m ²	2000 人
	12	プレミアムホテル中島公園札幌	291 m ²	250 人



4 市民・企業活動

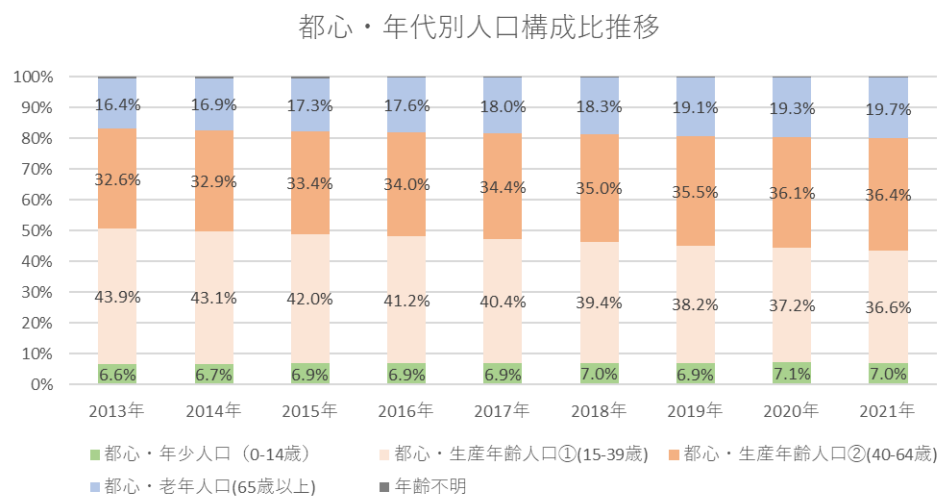
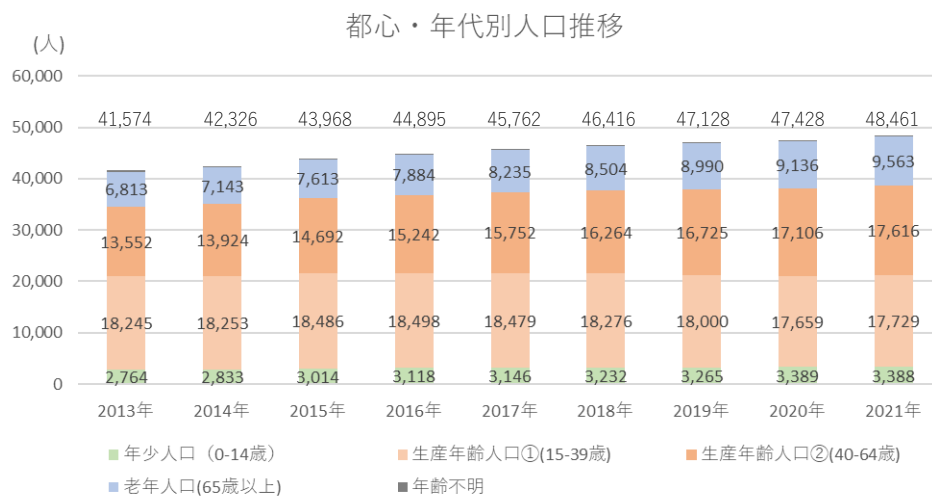
4-1 人口・世帯

(1) 人口・世帯数の推移

1) 都心の人口推移（住民基本台帳）

都心域の人口は年々増加傾向にあり、2021年10月時点では48,461人であった。

年代別人口構成比の推移をみると、年少人口はほぼ横ばいだが、生産年齢人口のうち15～39歳の割合が2013年比で7.3%減少している。老年人口並びに生産年齢人口のうち40～64歳の割合は増加傾向が続いている。



2) 都心の人口推移（札幌市全体との比較）

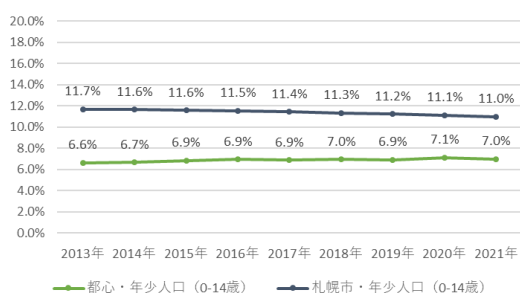
札幌市全体の傾向と比較すると、年少人口比は全市平均に比べ低く推移しているが、全市が減少傾向にあるのに対し、横ばいを維持している。

生産年齢人口前半（15～39歳）の比率は全市に比べ10%以上高く推移しているが、全市同様、減少傾向となっている。

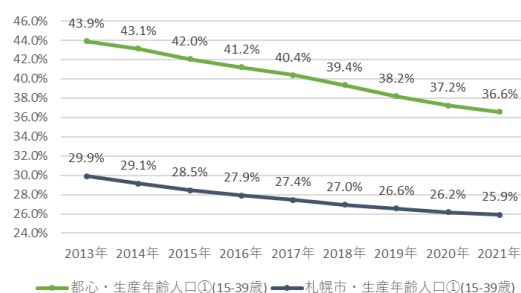
生産年齢人口後半（40～64歳）の比率は全市と大きな差は無いが、全市では減少傾向にあるのに対し、都心では増加傾向となっている。

老年人口比（65歳以上）は全市と同様増加傾向であるが、全市に比べ5%以上低く、また増加率の傾きは全市に比べ緩やかとなっている。

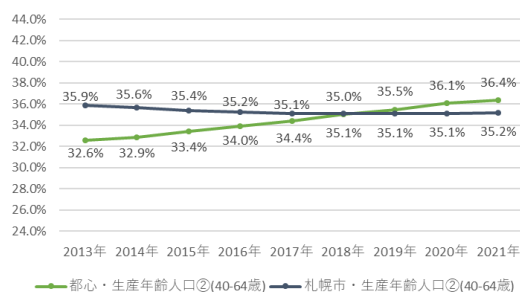
年少人口比(0～14歳)の推移



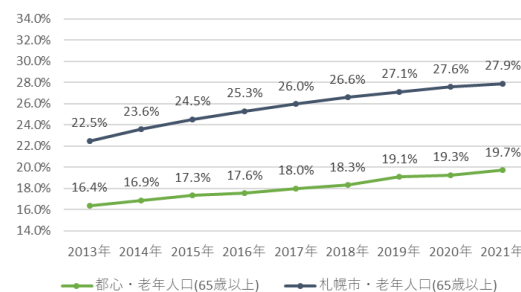
生産年齢人口比(15～39歳)の推移



生産年齢人口比(40～64歳)の推移



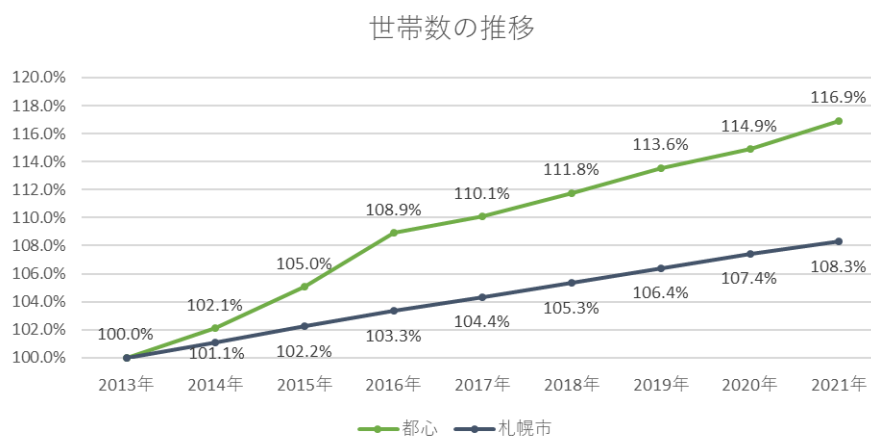
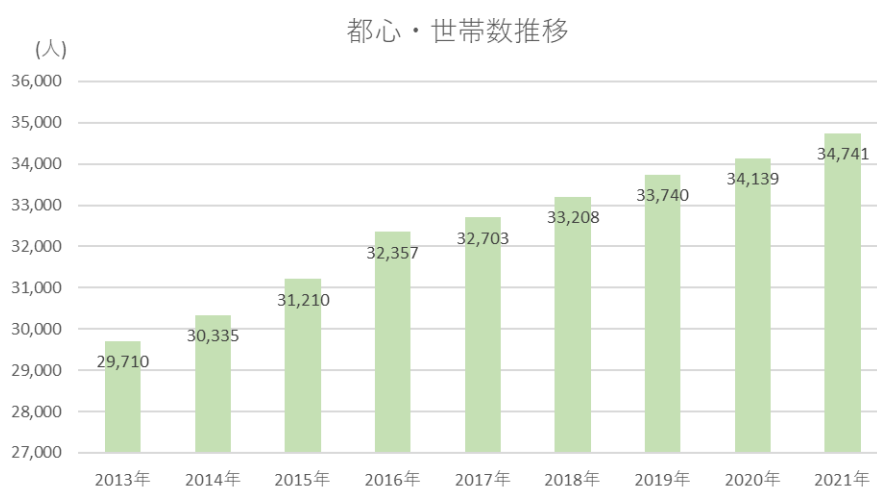
老年人口比(65歳以上)の推移



3) 都心の世帯数の推移（住民基本台帳）

都心の世帯数は年々増加傾向にあり、2021年時点の世帯数は34,741世帯となっている。

札幌市全体に比べても増加率が高く、2021年では札幌市全体との増加率の差は8.6%となっている。



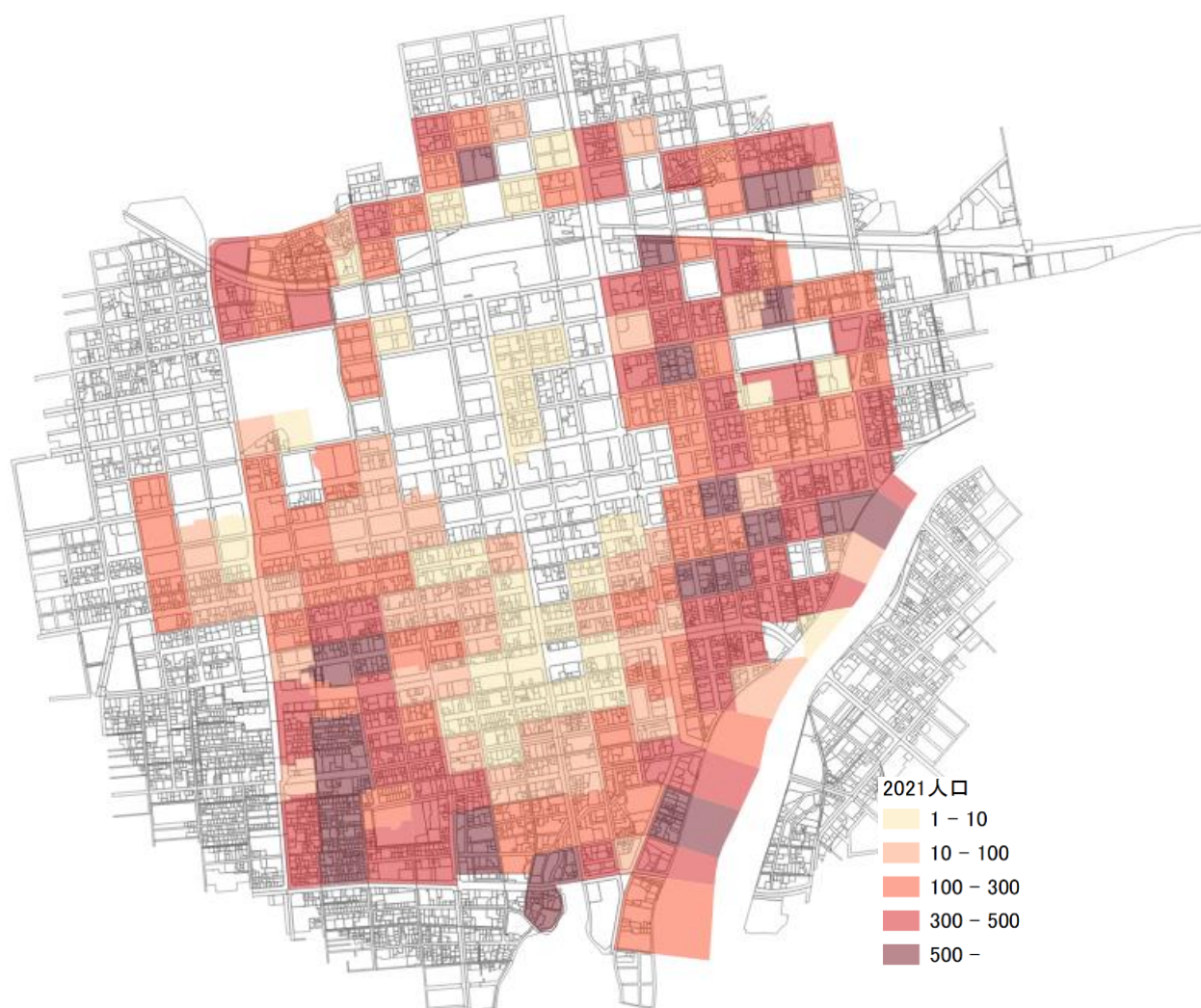
(2) 分布状況

2021年10月の住民基本台帳をもとに、人口・世帯の分布を示す。

1) 概況

①総人口

街区ごとの人口をみると、都心中心部を囲むように分布しており、特に創成東エリアとすすきの西側で集中がみられる。

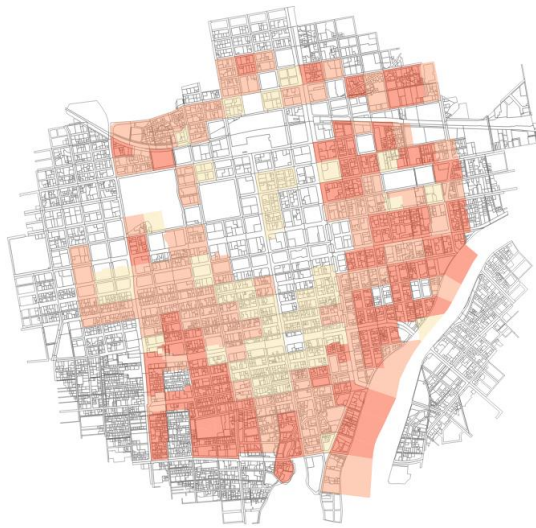


②年代別人口

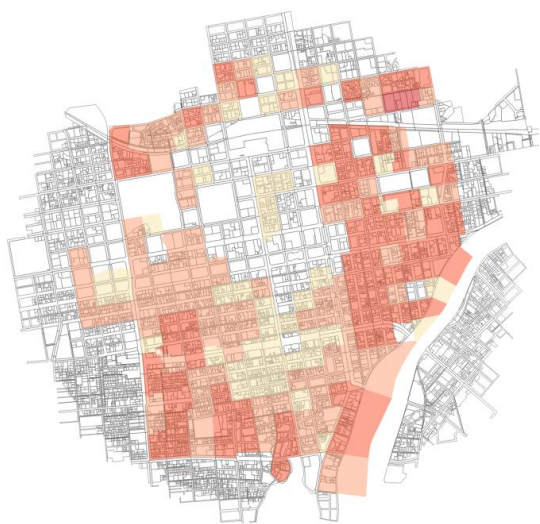
街区ごとの年代別人口の分布をみると、分布状況に大きな差異は見られないが、創成東エリア、すすきの西側エリアでは、生産年齢人口前半（15～39歳）並びに生産年齢人口後半（40～64歳）の人数が多いこと、また中島公園周辺では老年人口が多いことがわかる。



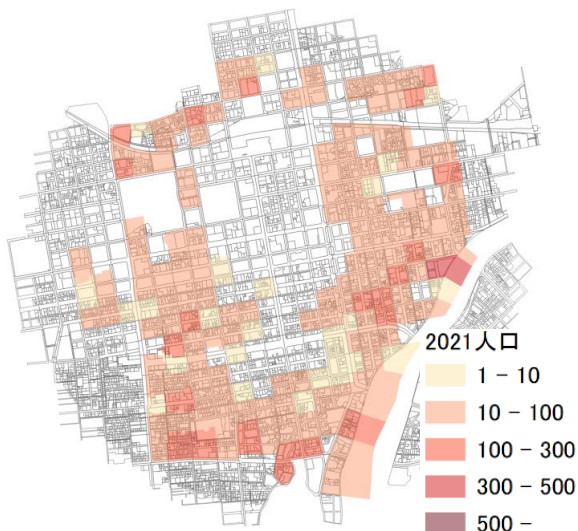
年少人口（0～14歳）



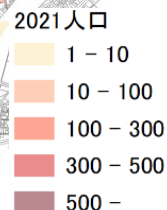
生産年齢人口前半（15～39歳）



生産年齢人口後半（40～64歳）

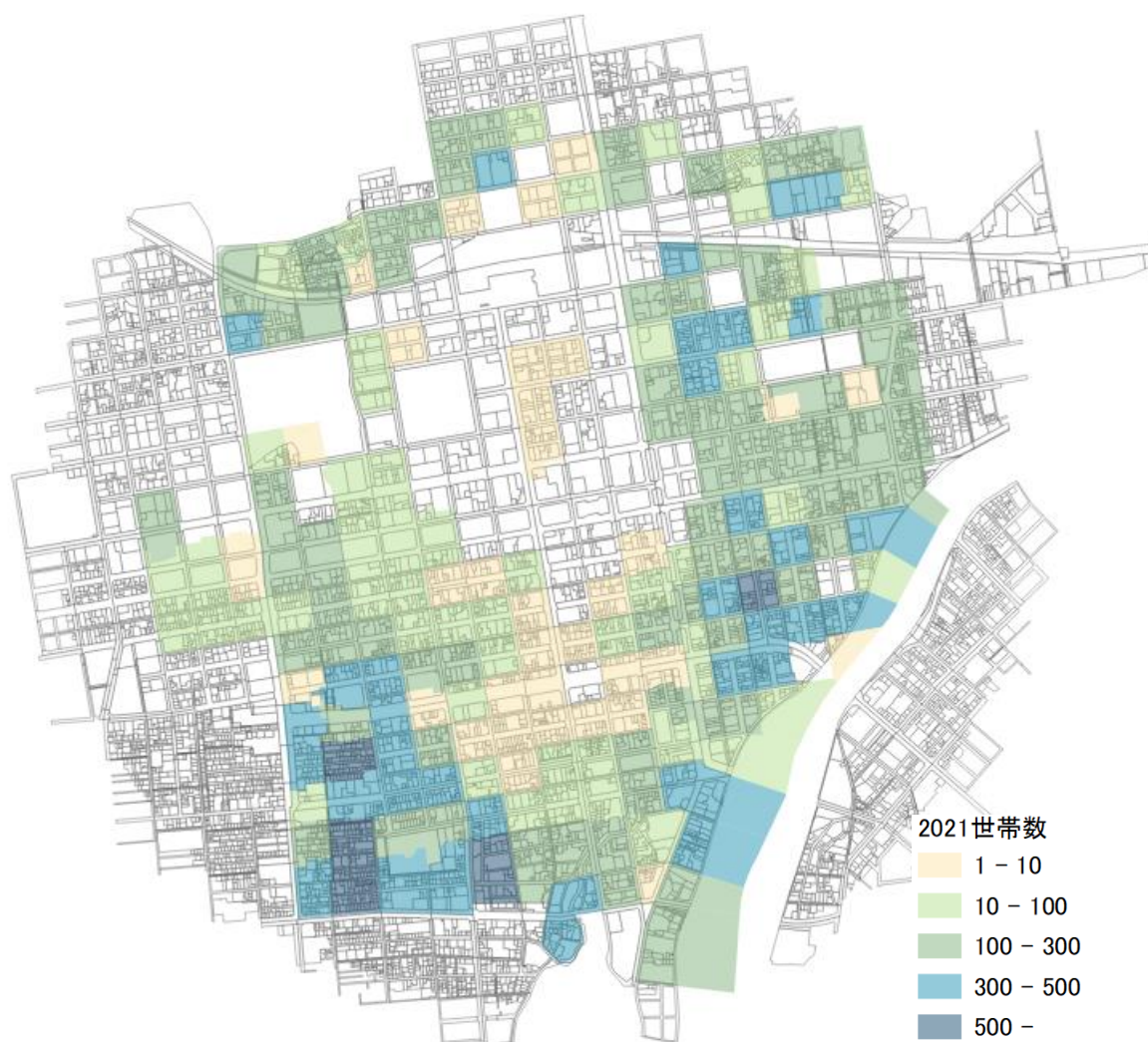


老年人口（65歳以上）



③総世帯数

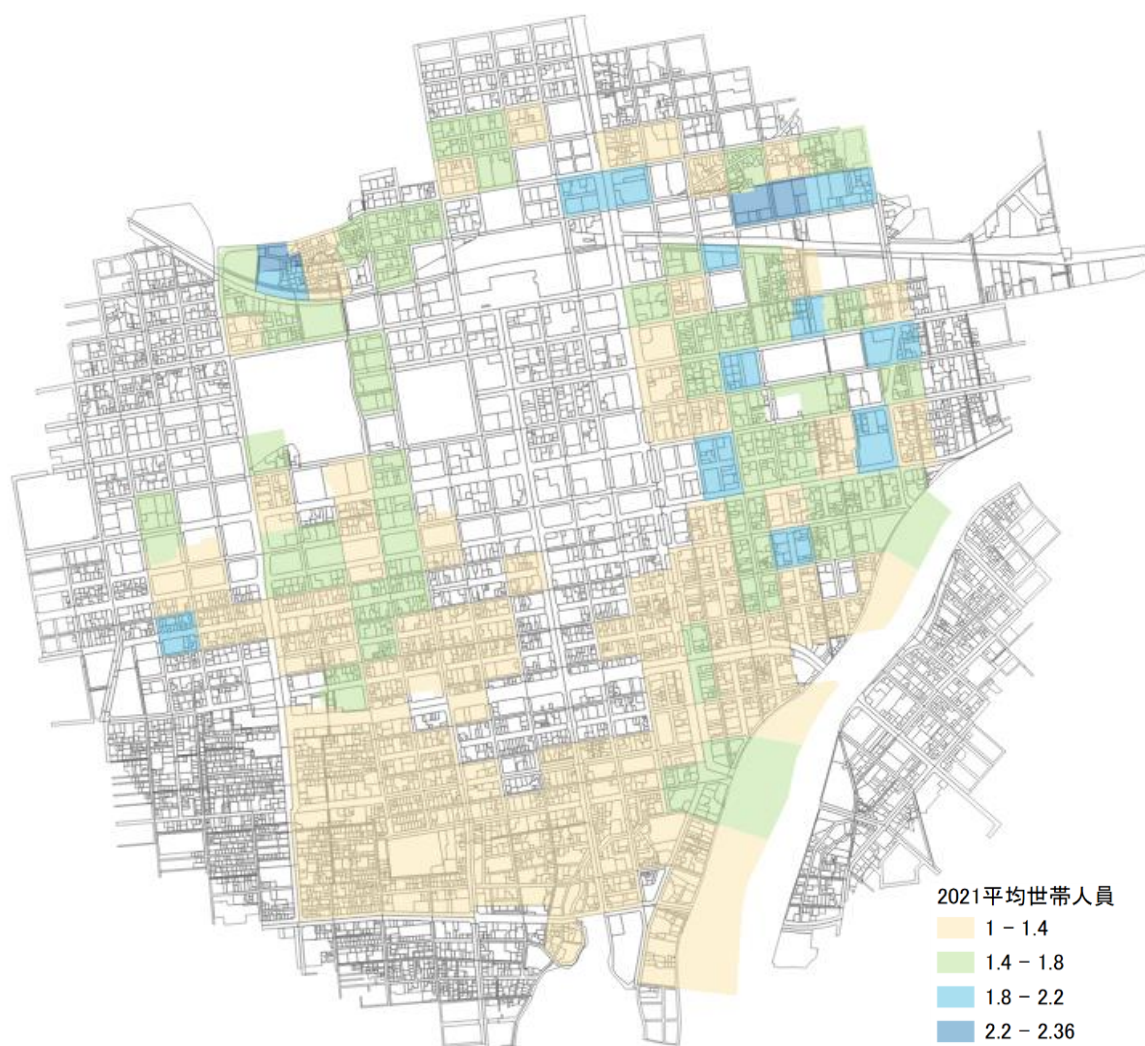
街区ごとの世帯数をみると、人口同様都心中心部を囲むように分布しており、特にすすきの西側エリアで世帯数が多くなっている。



④平均世帯人員数

街区ごとの平均世帯人員数をみると、1～1.4 人／世帯の街区が大半を占めており、都心全体として単身世帯が多いことがうかがえる。

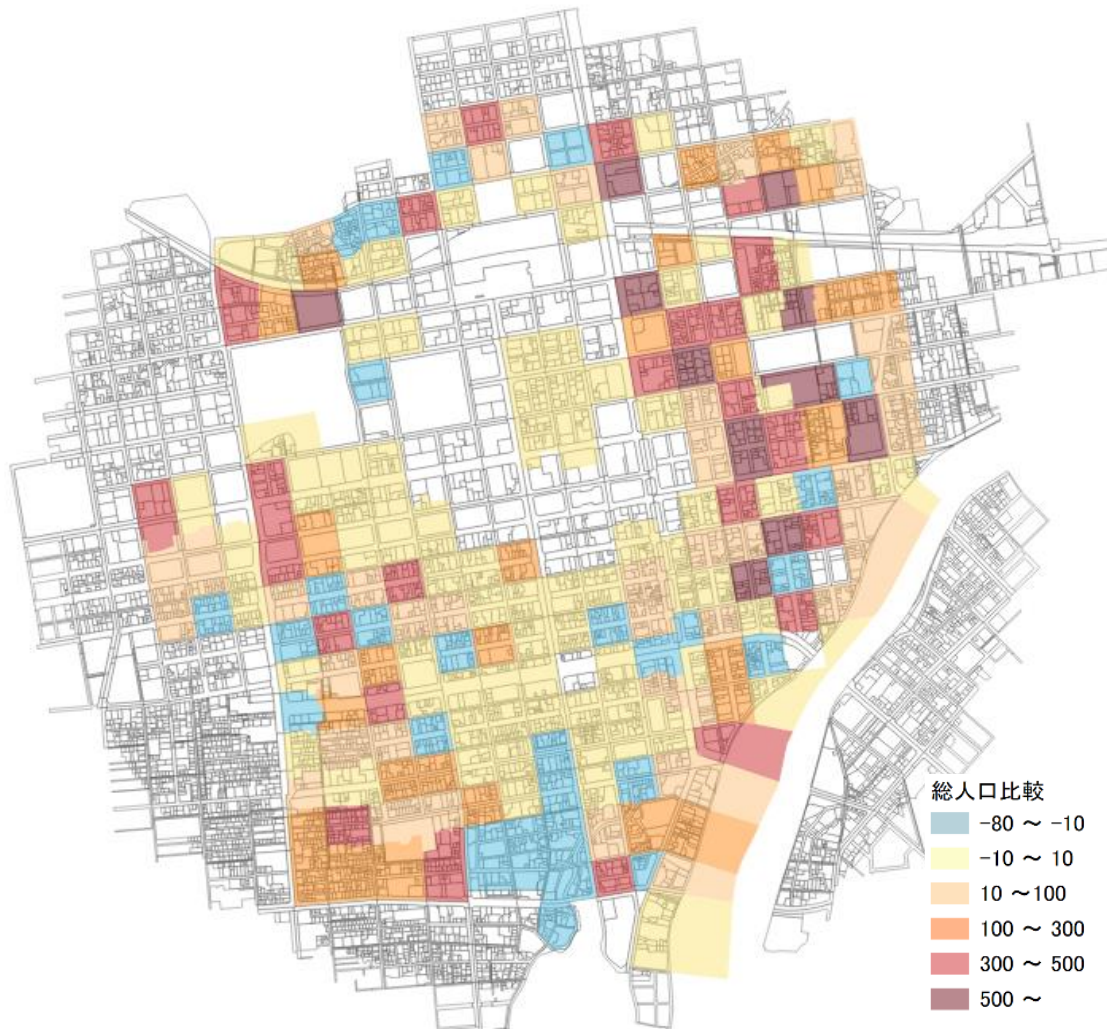
札幌市の平均世帯人員数（1.81 人／世帯）と比べて世帯人員数が多い街区は創成東エリアに多く分布しているほか、西 11 丁目周辺・植物園北側で数街区がみられる。



2) 過去 10 年間の増減

①人口増減

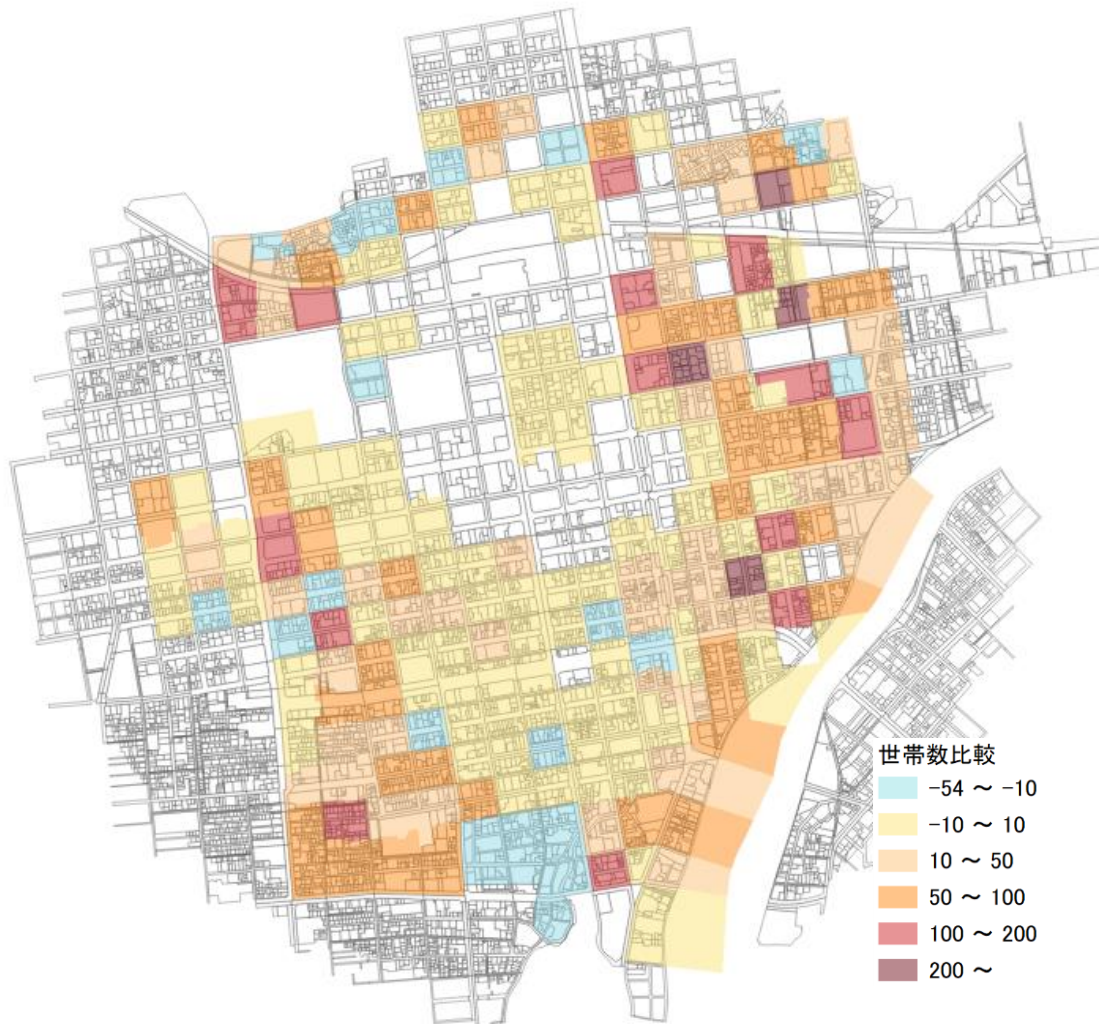
2011 年 10 月、2021 年 10 月の住民基本台帳調査で比較すると、創成東地区では人口が増加した街区が多いこと、中島公園北側に人口が減少した街区が集中していることがわかる。



人口増減 (2011 年→2021 年)

②世帯数増減

世帯数も人口と同様の傾向がみられ、過去 10 年間で世帯数が増加した街区は創成東エリアに多くみられる。



世帯増減 (2011 年→2021 年)

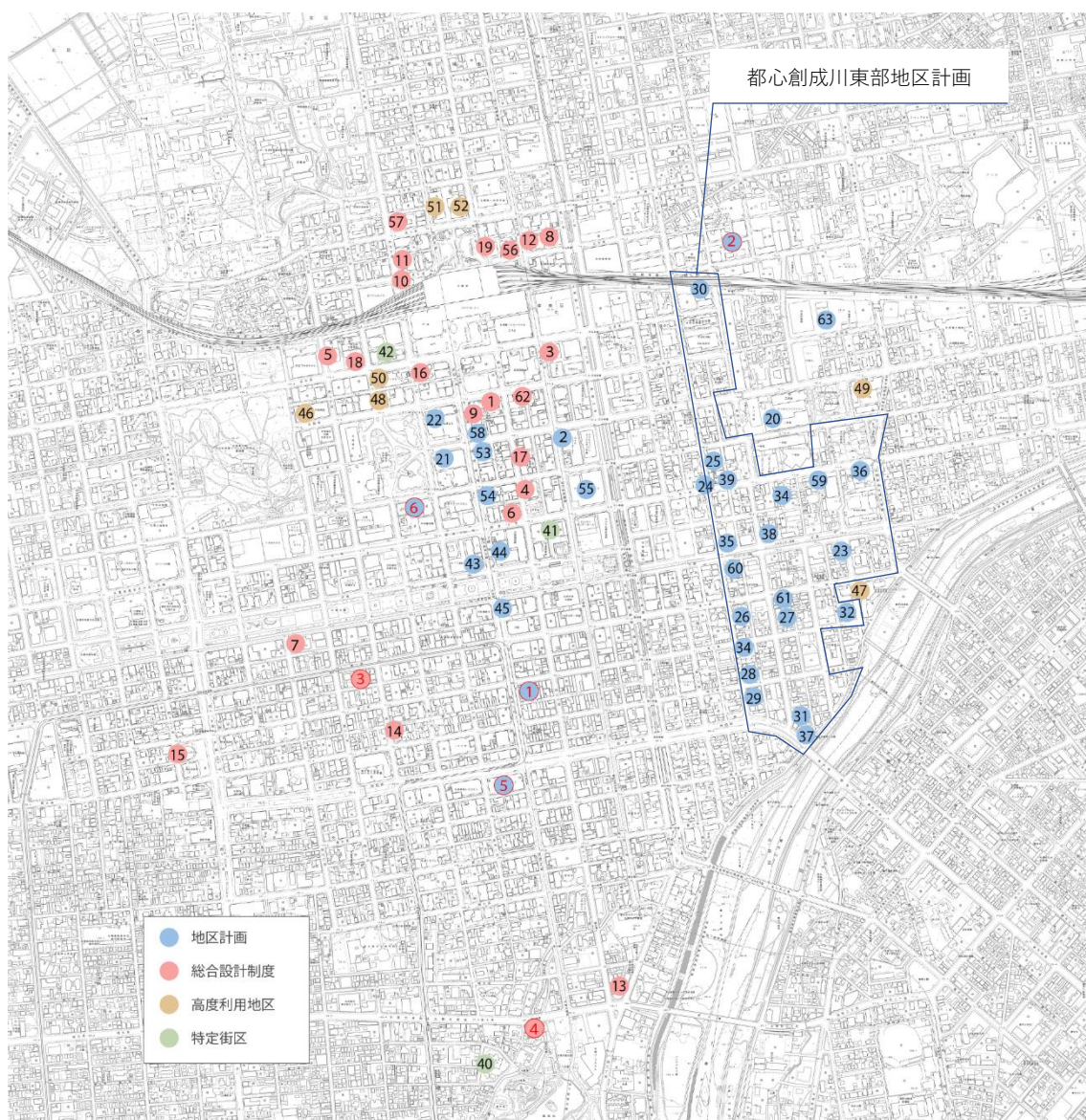
4-2 活動資源

(1) 公開空地等分布

札幌市の既往調査をもとに公開空地等オープンスペースの分布状況を見ると、札幌駅北口及び札幌駅前通周辺、また広範に地区計画がかけられている創成東地区に多く分布しており、マンションの新築に伴い整備された公開空地が多くを占めている。

また、件数は「地区計画」によるものが36件と最も多く、次いで「総合設計制度」によるものが23件と続いている。

区分	地区計画	総合設計制度	高度利用地区	特定街区	合計
件数	36	23	7	3	69



(公開空地等オープンスペース一覧)

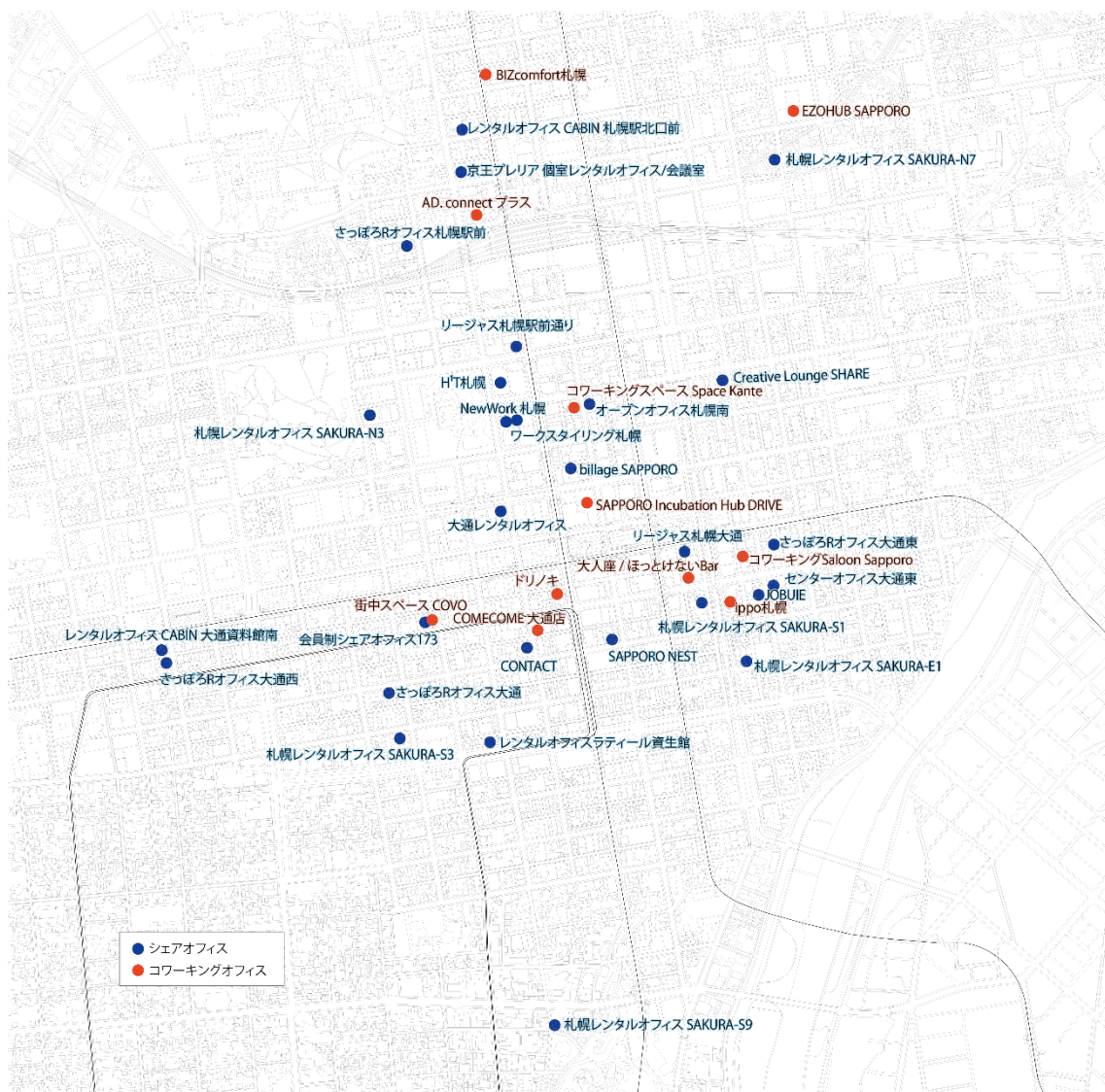
No	名称	開発手法
1	札幌北3条ビルディング	総合設計制度
2	ホテルニューオータニ	地区計画
3	ホクレンビル	総合設計制度
4	時計台ビル	総合設計制度
5	札幌センタービル	総合設計制度
6	MNビル	総合設計制度
7	朝日生命札幌大通ビル	総合設計制度
8	SE札幌ビル	総合設計制度
9	ヒューリック札幌ビル	総合設計制度
10	ホテルノースゲート	総合設計制度
11	北海道ビルディング	総合設計制度
12	NSS・ニューステージ札幌	総合設計制度
13	アートホテルズ札幌	総合設計制度
14	南3条グランドビル	総合設計制度
15	札幌プリンスホテル	総合設計制度
16	読売新聞北海道ビル	総合設計制度
17	クロスホテル札幌	総合設計制度
18	三井ガーデンホテル札幌	総合設計制度
19	札幌北ビル	総合設計制度
20	ビール工場跡地地区	地区計画
21	札幌三井JPビルディング	地区計画
22	日本生命札幌ビル	地区計画
23	アルファタワー南1条	地区計画
24	クリーンリバーフィネス	地区計画
25	シティハウス北1東3	地区計画
26	オーランド皆善	地区計画
27	第二渡辺ビル	地区計画
28	えんどう病院	地区計画
29	アルファコート南4	地区計画
30	ライオンズ北5	地区計画
31	アルファスクエア南4	地区計画
32	パークホームズ札幌大通	地区計画
33	リビオ札幌大通	地区計画
34	ラクラッセ札幌大通	地区計画
35	パークホーム札幌大通東	地区計画

No	名称	開発手法
36	シティハウス大通東	地区計画
37	マストライフ南4東4	地区計画
38	札幌スポーツクリニック	地区計画
39	パークハウス大通東	地区計画
40	ノボテル札幌	特定街区
41	札幌市本庁舎	特定街区
42	全信連・住友生命札幌ビル	特定街区
43	札幌大通西4ビル	地区計画
44	北洋大通センタービル	地区計画
45	明治安田生命札幌大通ビル	地区計画
46	北海道庁西地区	高度利用地区
47	一条橋周辺	高度利用地区
48	北4西5南地区	高度利用地区
49	旧永山邸周辺	高度利用地区
50	北4西5北地区	高度利用地区
51	北8西3西地区	高度利用地区
52	北8西3東地区	高度利用地区
53	フコク生命越山ビル	地区計画
54	桂和北1条ビル	地区計画
55	創成スクエア	地区計画
56	JR東日本ホテルメッツ札幌	総合設計制度
57	京王プレリアホテル	総合設計制度
58	大同生命札幌ビル	地区計画
59	パークホームズ札幌大通東ザレジデンス	地区計画
60	北1西3ビル	地区計画
61	ラ・クラッセ札幌大通ミッドシティ	地区計画
62	ホテルFORZA札幌駅前	総合設計制度
63	北4東6周辺地区	地区計画
①	南2西3地区	地区計画
②	卸センター跡地	地区計画
③	南1西7地区	総合設計制度
④	南9西5地区	総合設計制度
⑤	ラフィラ跡地	地区計画
⑥	北海道放送(株)跡地	地区計画

※①~⑥は計画中のもの

(2) インキュベーション施設

民間データをもとに、インキュベーション施設となり得るシェアオフィス・コワーキングスペースの分布状況を整理したところ、地下鉄沿線を中心に分布がみられた。

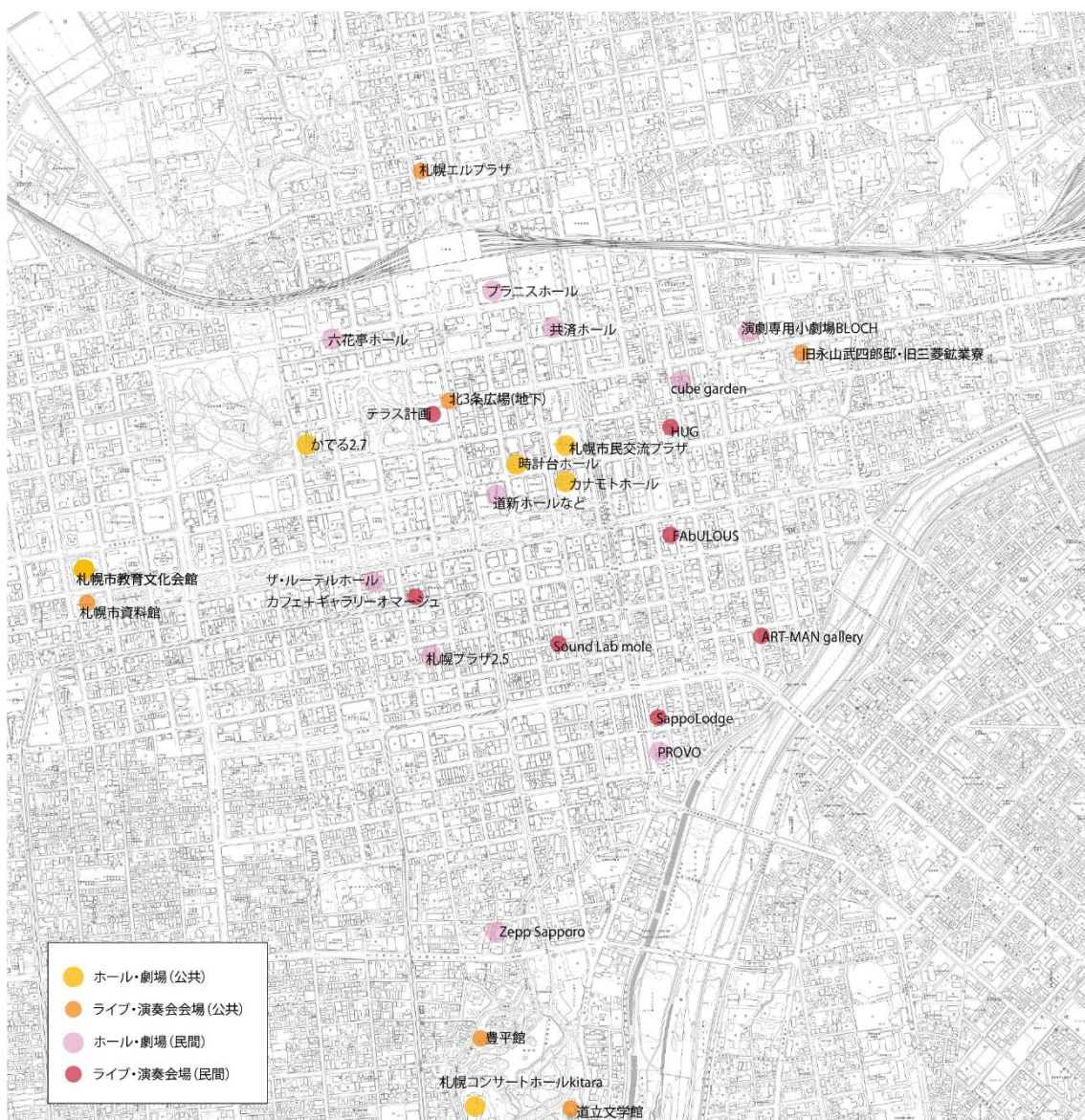


(3) 文化施設・アートスペース

札幌文化芸術交流センターSCARTS のホームページ上で公開されている「札幌市内の文化施設・アートスペース情報」をもとに、文化活動施設の分布を整理した。

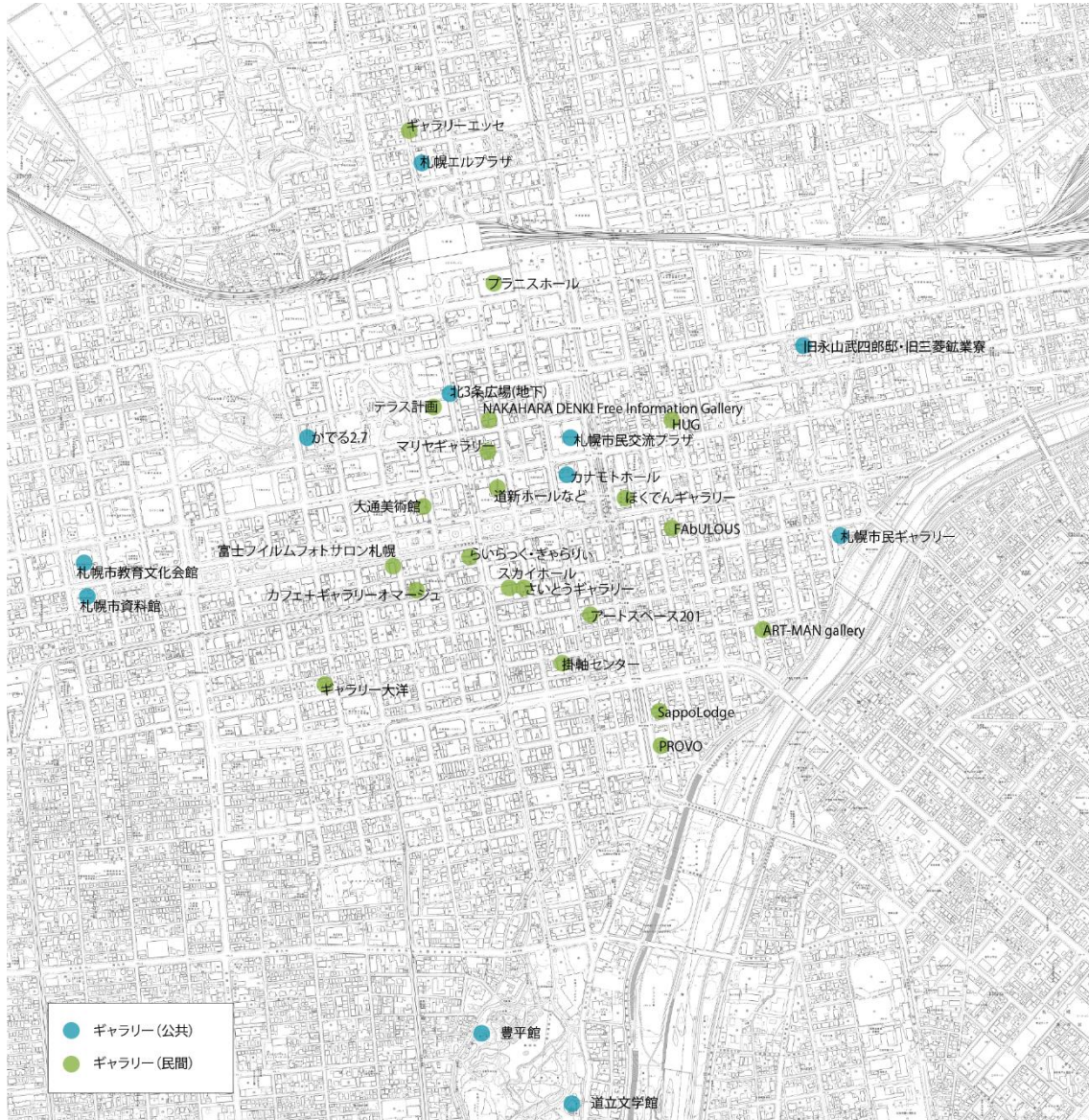
1) 劇場・ホールなど

主にコンサートや舞台などでの利用が想定される劇場・ホールは、公民併せて 16 カ所ほどある。ホールほどの広さは無いがライブや演奏会などで利用されている施設は、公民併せて 12 カ所ほどあり、都心内に広く分布していることがわかる。



2) ギャラリー・展示スペース

ギャラリー・展示スペースは、公共施設に比べ民間施設が多く、大通公園周辺に集積がみられる。



5 市民アンケート調査結果

5-1 調査概要

1) 調査の目的

札幌市民を対象として以下の内容を把握し、過年度調査との比較分析をふまえ、都心におけるまちづくりの方向性を検討するための基礎資料とする。

2) 調査方法

インターネット調査（株式会社楽天インサイト）

3) 調査期間

2021年12月15日(水)～20日(月)、6日間

4) 調査対象

札幌市内に居住する18歳以上80歳未満の男女1200人

※2021年10月の住民基本台帳の人口比率をもとに調査数の割付を行った。

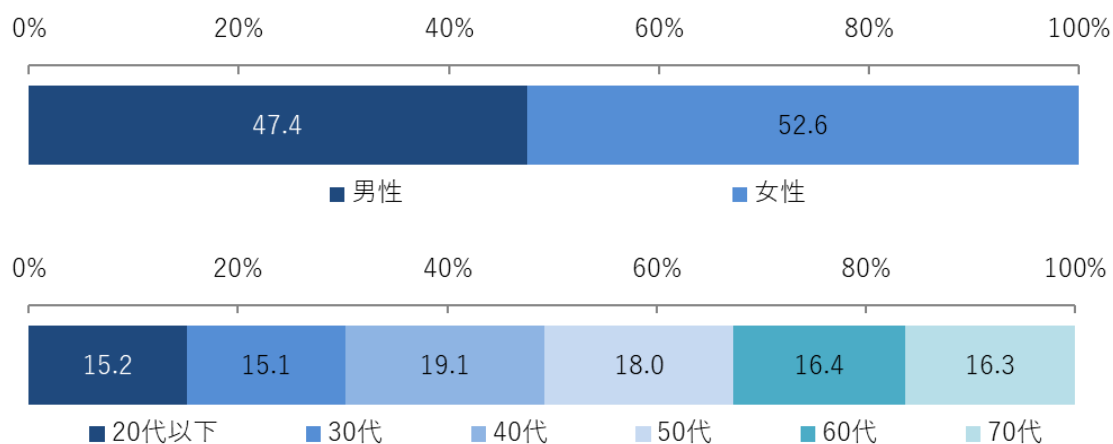
年代	男性	女性	合計
18～29歳	89	93	182
30～39歳	88	93	181
40～49歳	111	118	229
50～59歳	102	114	216
60～69歳	93	104	197
70～79歳	86	109	195
計	569	631	1,200

5-2 調査結果

1) 回答者属性

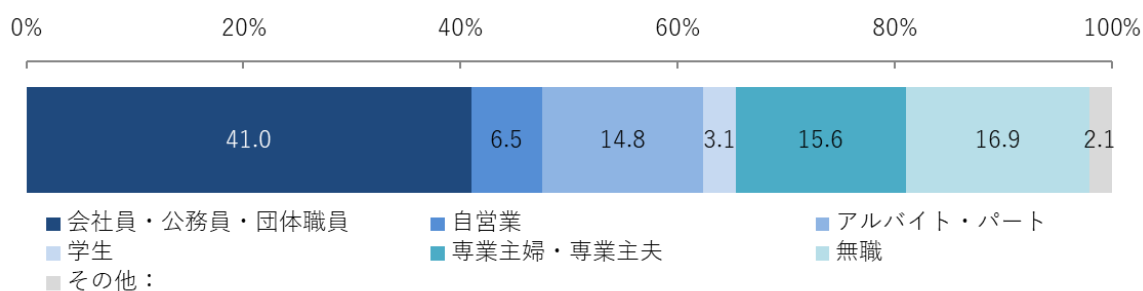
①性別・年代【単数回答】

回答者の性別・年代は前ページに示した割付けの通りである。



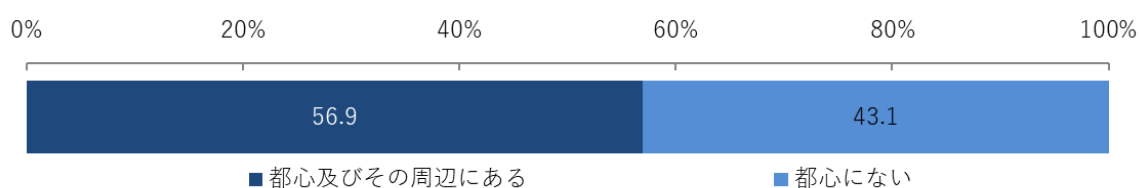
②職業【単数回答】

「会社員・公務員・団体職員」の割合が約4割で最も多い。「自営業」「アルバイト・パート」と合わせ、何らかの仕事に就いている人の割合は約6割となっている。



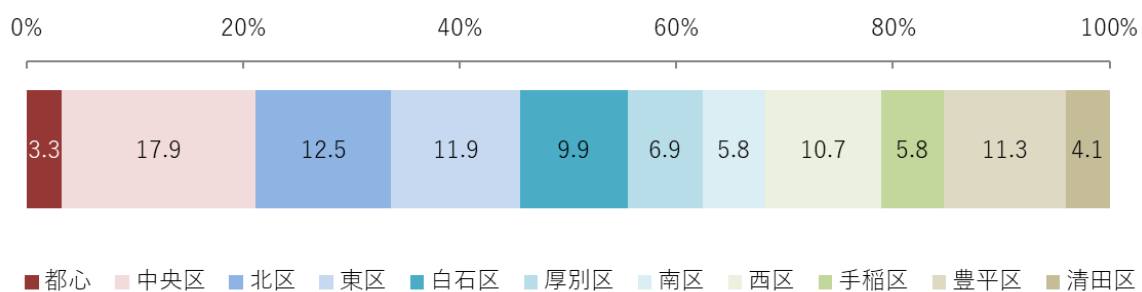
③通勤・通学地【単数回答】

通勤・通学地は「都心及びその周辺」が約6割となっている。



④居住地【単数回答】

「中央区」が最も高く 17.9%、次いで「北区(12.5%)」、「東区(11.9%)」、「豊平区(11.3%)」と、都心周辺の区の居住地が比較的多い。「都心」の割合は 3.3%だった。

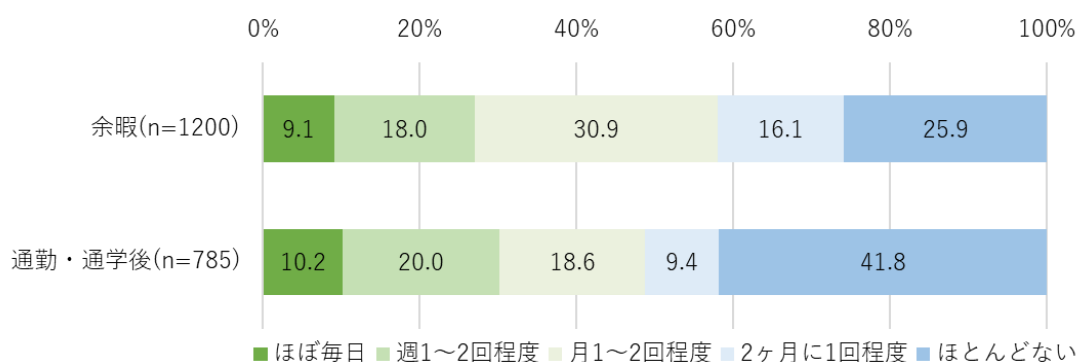


2) 都心の利用実態

①利用頻度【単数回答】

余暇、通勤・通学後ともに「ほぼ毎日」利用する人の割合は約1割、「週1~2回程度」利用する人の割合は約2割だった。

「ほとんどない」の割合は余暇で25.9%、通勤・通学後で41.8%となった。

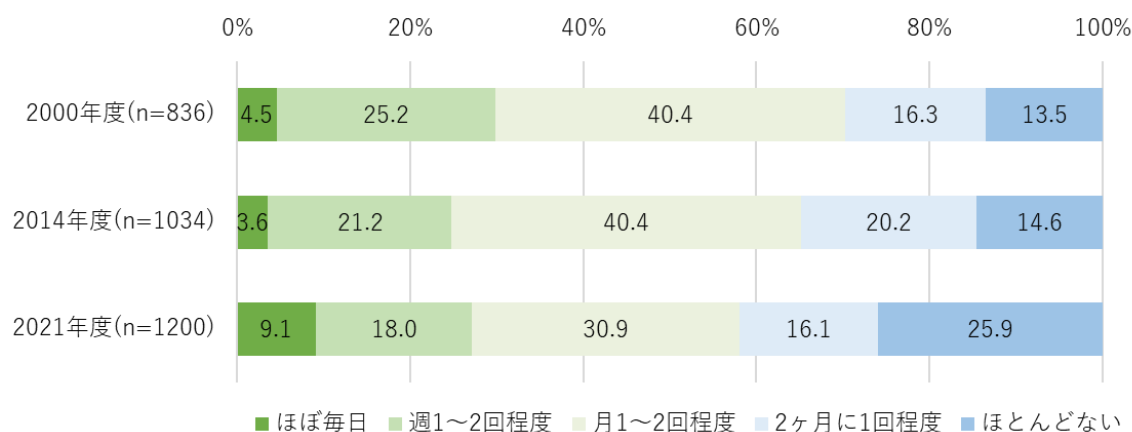


②余暇の利用頻度

(余暇の利用頻度：過年度調査比較)

余暇の利用頻度は、過年度調査と比べて「ほぼ毎日」の増加がみられる。

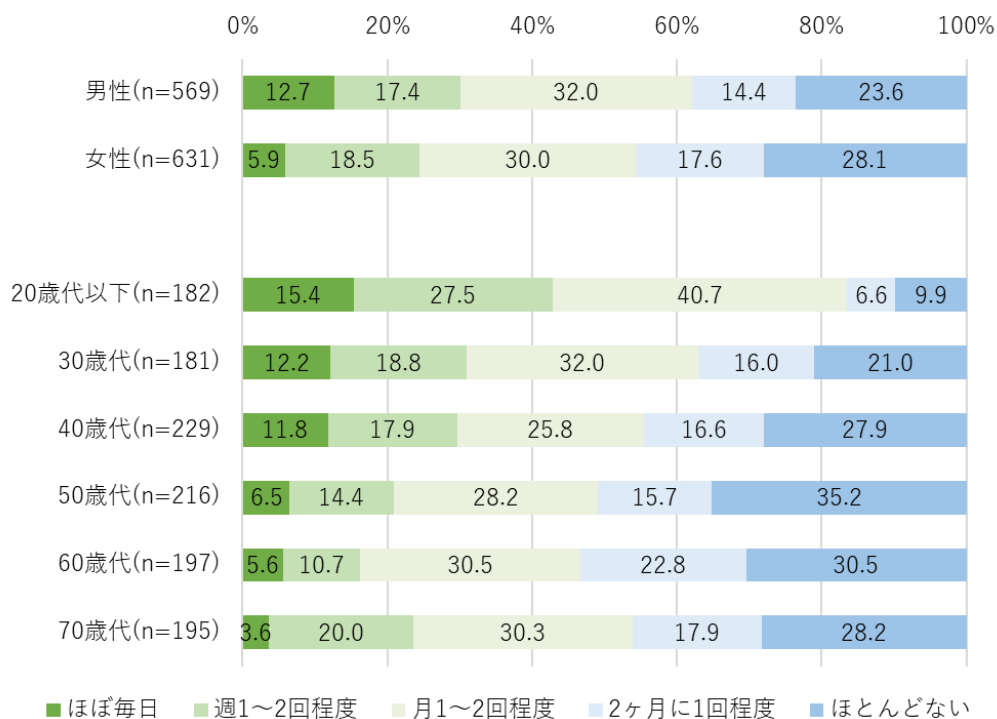
一方で「ほとんどない」の割合も増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染拡大の永起用もあると考えられるが、都心をほとんど利用しない人が増えている。



(余暇の利用頻度：性別・年代別)

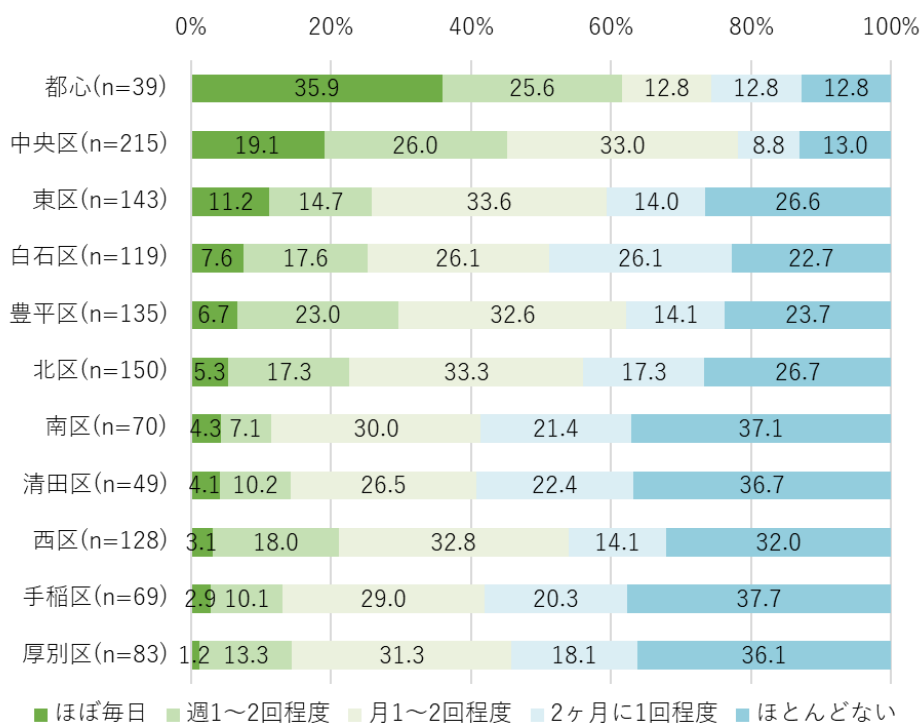
余暇の利用頻度は、女性に比べ男性で高く、また年代が下がるほど高い傾向がみられる。

「ほとんどない」の割合は50歳代で最も高い。



(余暇の利用頻度：居住地別)

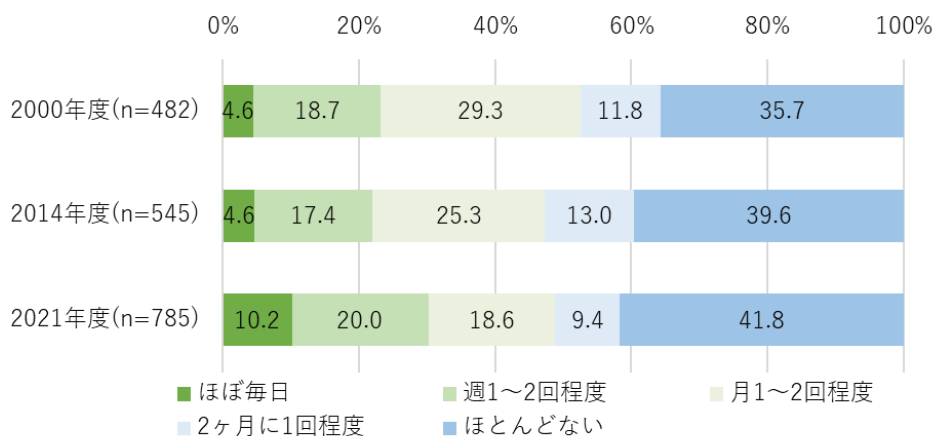
居住地が「都心」と回答した人は「ほぼ毎日」の割合は35.9%と高く、都心近隣の中央区・東区・豊平区などの居住者もその割合が高い。



③通勤・通学後の利用頻度

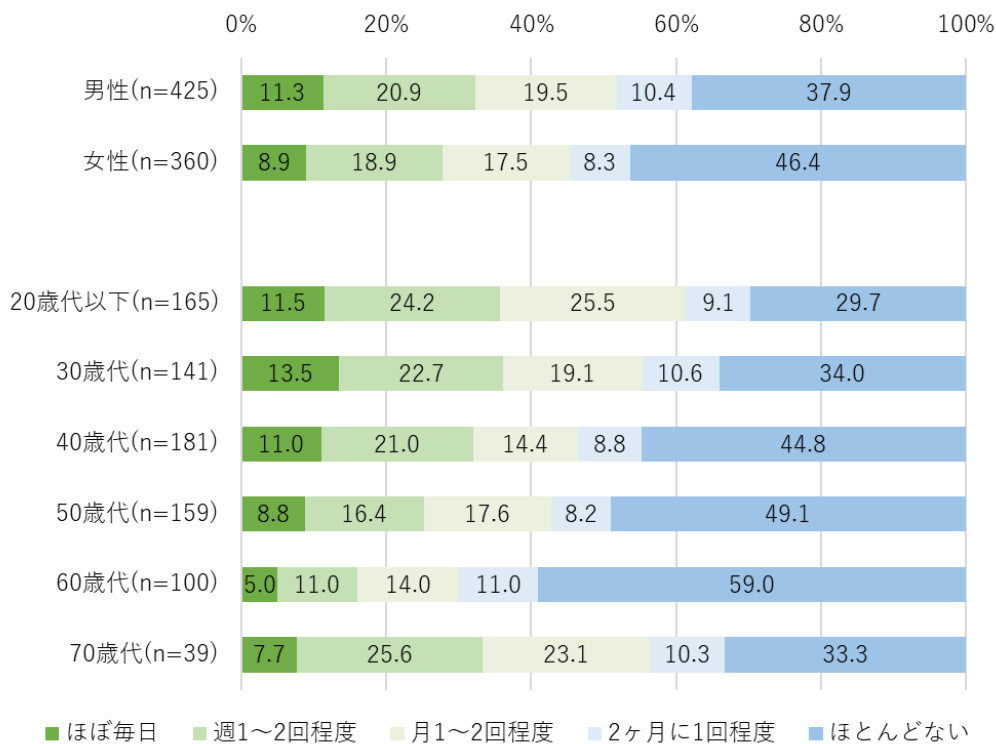
(通勤・通学後の利用頻度：過年度調査比較)

通勤・通学後の利用頻度も、過年度調査と比べて「ほぼ毎日」の増加がみられる。一方で「ほとんどない」の割合も増加傾向にある。



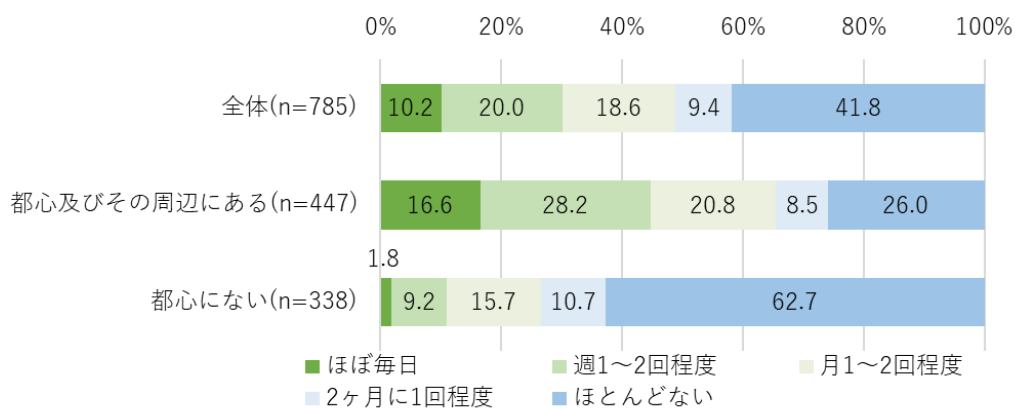
(通勤・通学後の利用頻度：性別・年代別)

通勤・通学後の利用頻度も、余暇と同様で女性に比べ男性で高く、また年代が下がるほど高い傾向がみられる。



(通勤・通学後の利用頻度：通勤・通学地別)

通勤・通学地別にみると、通勤・通学地が「都心及びその周辺にある」では「ほぼ毎日」「週1~2回程度」を合わせた割合が4割以上と高い。

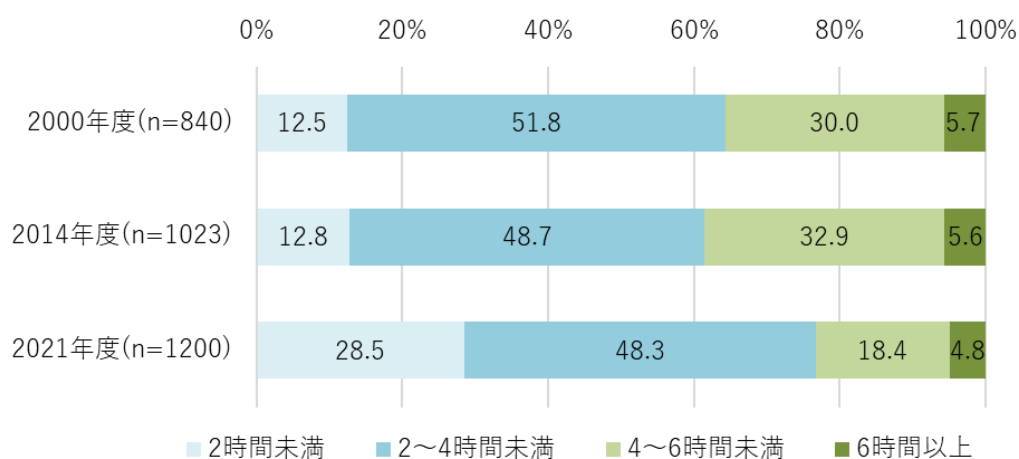


④余暇の滞在時間【単数回答】

(余暇の滞在時間：過年度調査比較)

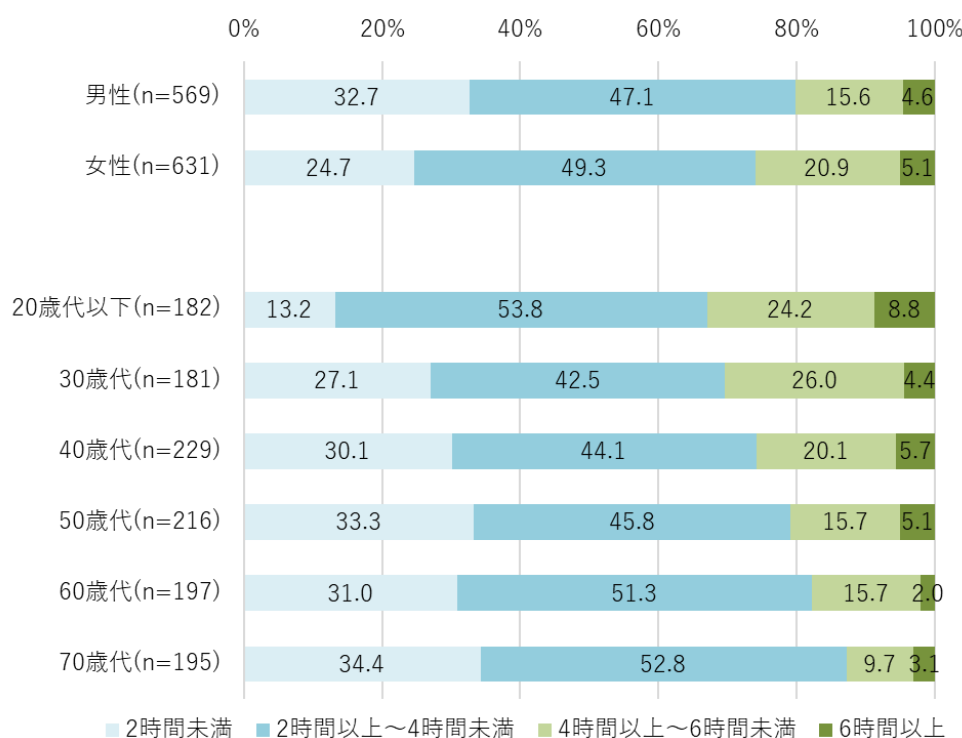
余暇に都心を利用する際の滞在時間は、「2時間未満」が28.5%、「2～4時間未満」が48.3%となっている。

過年度調査と比較すると、「2時間未満」及び「4～6時間未満」が増加しており、都心での滞在時間が減少傾向にあることがうかがえる。その一方で、「6時間以上」の割合は5%前後と低いものの、長時間滞在する層が一定程度いると考えられる。



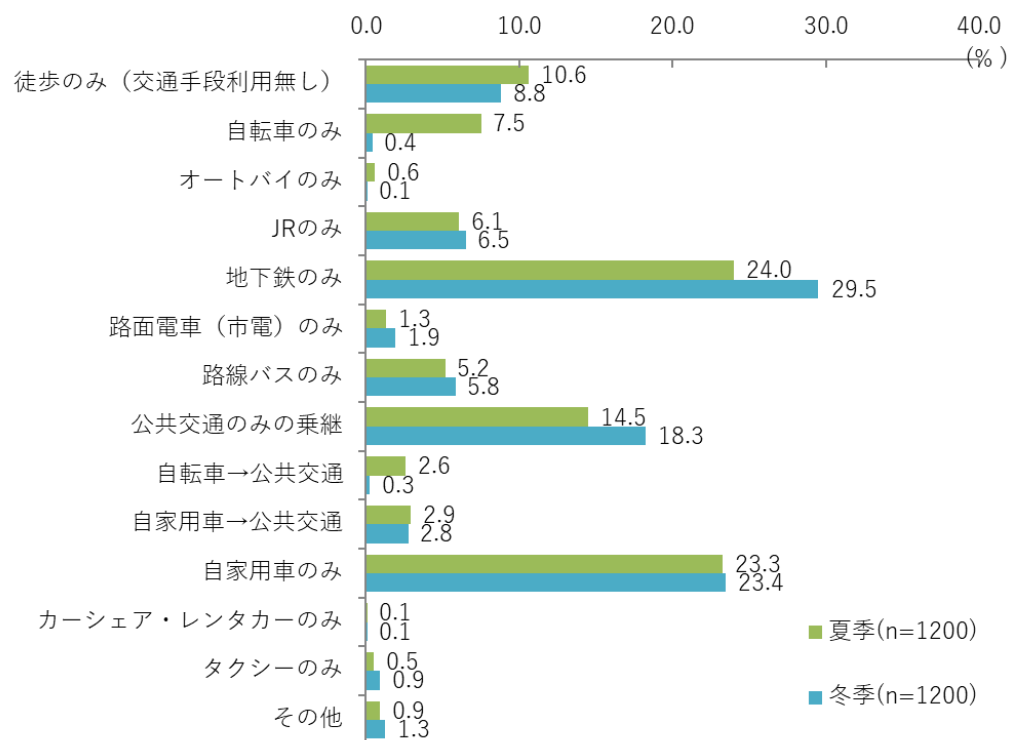
(余暇の滞在時間：性別・年代別)

余暇に都心を利用する際の滞在時間は男性より女性で長い。また年代が下がるほど滞在時間が長くなる傾向がみられた。



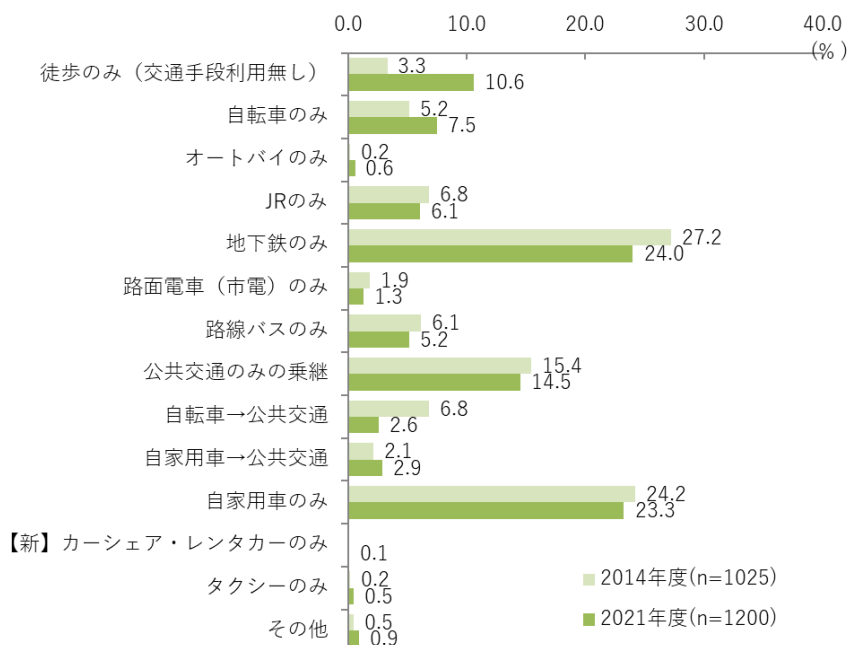
⑤都心へのアクセス手段【単数回答】

夏季・冬季とも「地下鉄のみ」の回答率が夏季 24.0%・冬季 29.5%と最も高く、次いで「自家用車のみ」の回答率が夏季 23.3%・冬季 23.4%となっている。



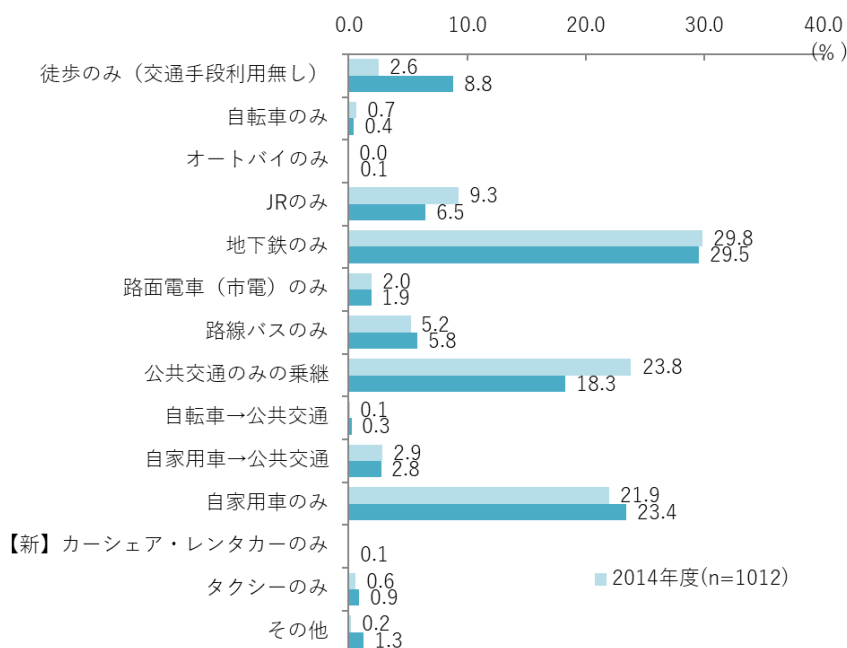
(過年度調査比較：夏季のアクセス手段)

「徒歩のみ（交通手段利用無し）」・「自転車のみ」の回答率は増加しており、都心居住の進展が要因のひとつとして考えられる。「自家用車のみ」の回答率には差がみられなかった。



(過年度調査比較：冬季のアクセス手段)

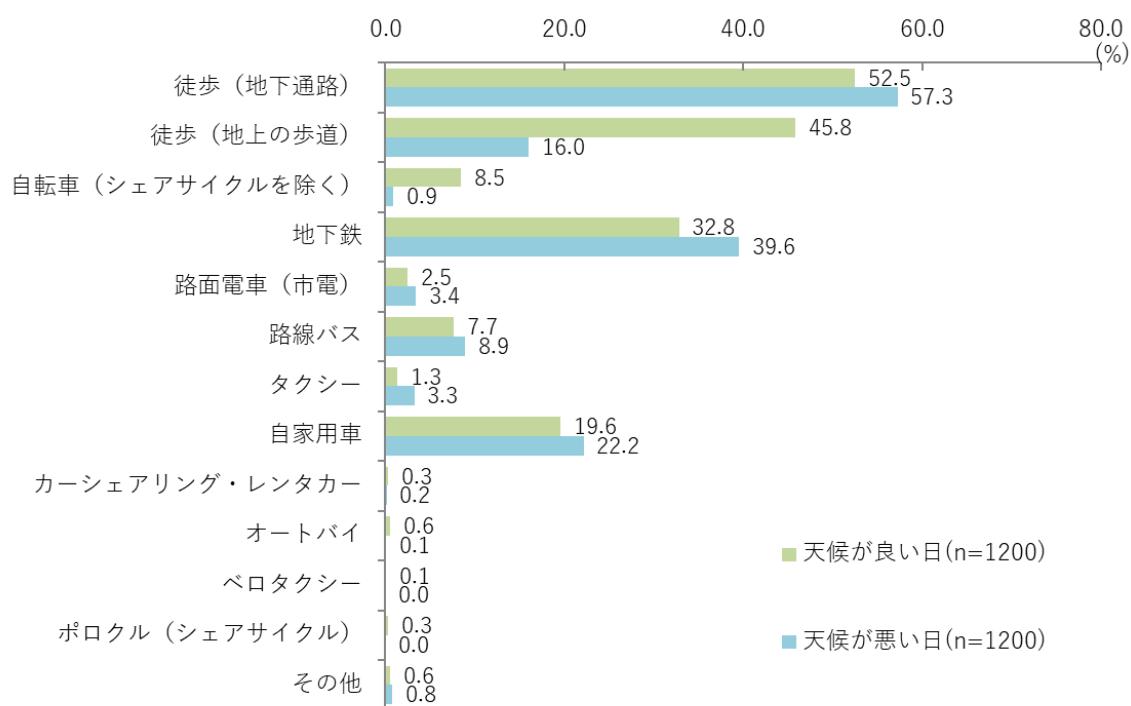
夏季と同様、「徒歩のみ（交通手段利用無し）」の回答率が増加している。「JRのみ」「公共交通のみの乗継」は減少がみられた。



⑥都心内の移動手段【複数回答、主なもの3つまで】

天候の良し悪しに関わらず、「徒歩（地下通路）」の回答率が最も高く、過半数を占めている。

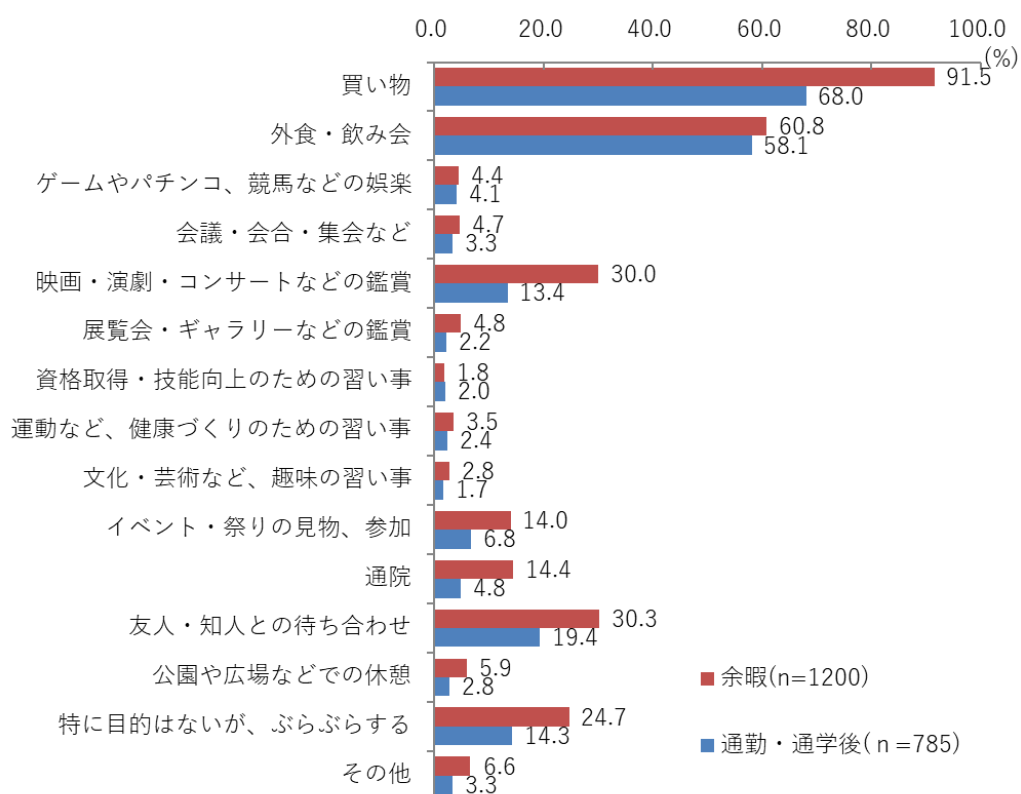
差があったのは「徒歩（地上の歩道）」で、天候が良い日は屋外の歩道を利用する人が多いことがわかった。また、「自転車（シェアサイクルを除く）」も同様の傾向がみられた。



⑦主な利用目的【複数回答、主なもの3つまで】

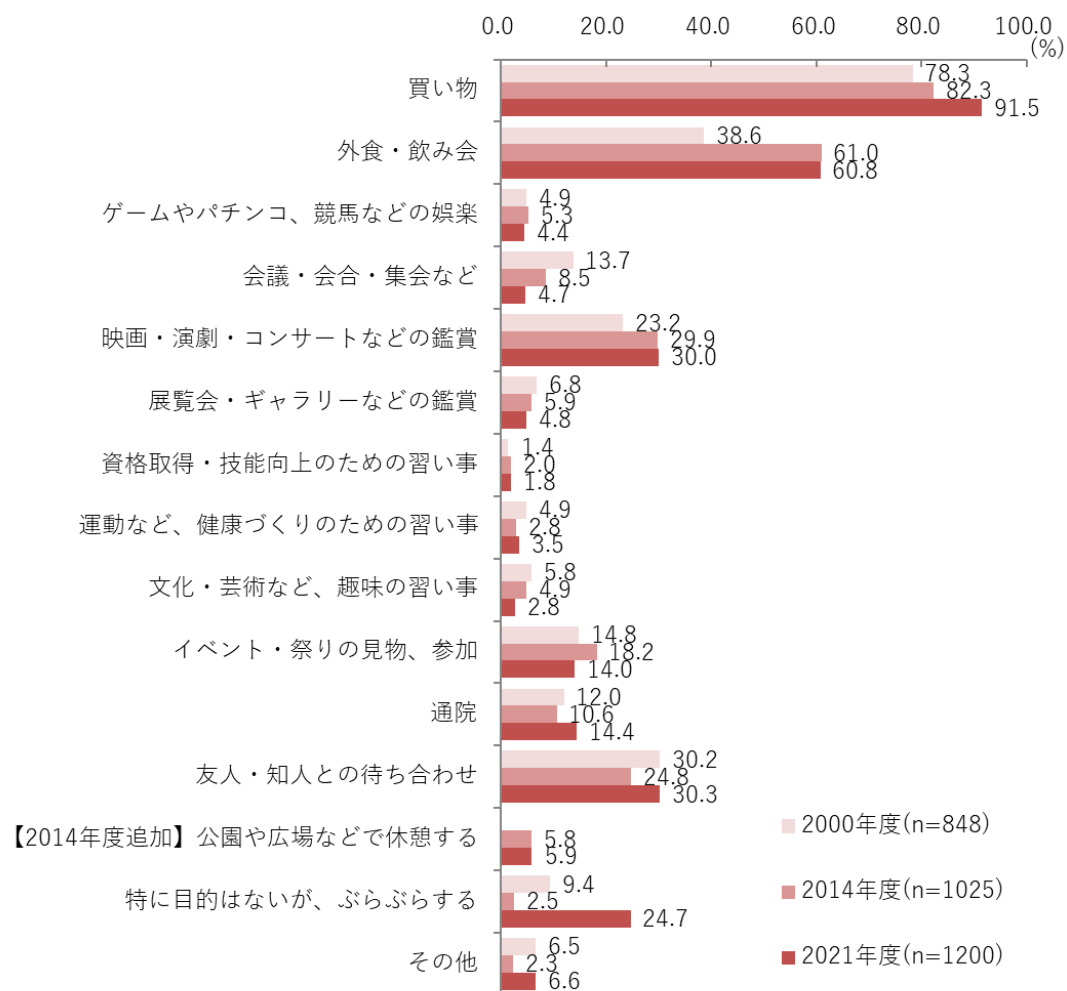
余暇で訪れる場合の回答率は「買い物」が最も高く91.5%、次いで「外食・飲み会(60.8%)」、「友人・知人との待ち合わせ(30.3%)」、「映画・演劇・コンサートなどの鑑賞(30.0%)」、「特に目的はないが、ぶらぶらする(24.7%)」の順となった。

通勤・通学後に訪れる場合の回答率も余暇と同様で「買い物」が最も高く68.0%、次いで「外食・飲み会(58.1%)」、「友人・知人との待ち合わせ(19.4%)」、「映画・演劇・コンサートなどの鑑賞(13.4%)」、「特に目的はないが、ぶらぶらする(14.3%)」の順となった。



(余暇の利用目的：過年度調査比較)

「買い物」の回答率は増加傾向がみられる。また、今回調査では「特に目的はないが、ぶらぶらする」の回答率が大きく増加した。



(余暇の利用目的：性別・年代別)

回答率が10%以上の項目について性別・年代別の回答率をみると、40歳代以上では「外食・飲み会」では年代が下がるほど、「通院」では年代が上がるほど、回答率が高くなる傾向がみられた。

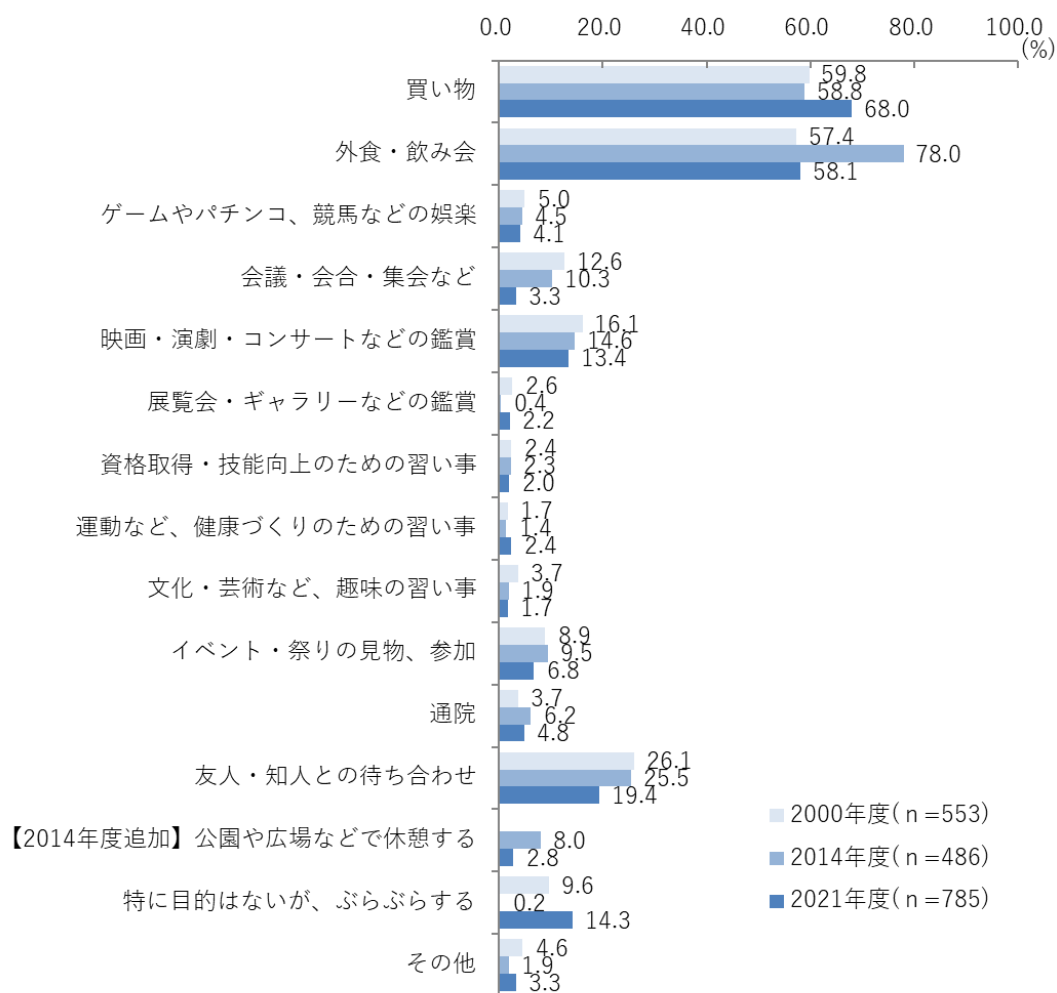
		回答者数	買い物	外食・飲み会	映画・演劇・コンサートなどの鑑賞	見物、参加イベント・祭りの	通院	友人・知人との待ち合わせ	特に目的はないが、ぶらぶらする
全体平均		1200	91.5	60.8	30.0	14.0	14.4	30.3	24.7
性別	男性	569	88.0	64.7	29.3	17.6	13.2	17.4	26.2
	女性	631	94.6	57.2	30.6	10.8	15.5	41.8	23.3
年代	20歳代以下	182	94.0	68.7	33.0	11.0	8.8	36.8	22.0
	30歳代	181	95.0	65.7	28.7	13.8	10.5	27.1	26.0
	40歳代	229	93.9	68.1	30.1	16.6	8.7	27.1	23.6
	50歳代	216	89.8	61.6	33.8	17.6	13.0	24.1	25.9
	60歳代	197	91.9	53.3	27.9	11.2	17.8	35.0	25.4
	70歳代	195	84.6	46.7	26.2	12.8	28.2	32.8	25.1

■ 平均値+5以上 ■ 平均値+3~5未満 ■ 平均値-3~-5未満 ■ 平均値-5以下

(過年度調査比較：通勤・通学後の利用目的)

大きな変化はみられないが、「買い物」の回答率がやや増加している。

「会議・会合・集会など」、「映画・演劇・コンサートなどの鑑賞」、「友人・知人との待ち合わせ」は、減少傾向がみられる。



(通勤・通学後の利用目的：性別・年代別)

回答率が10%以上の項目について性別・年代別の回答率をみると、「外食・飲み会」は女性に比べ男性の回答率が高く、年代が下がるほど回答率が高くなる傾向がみられた。

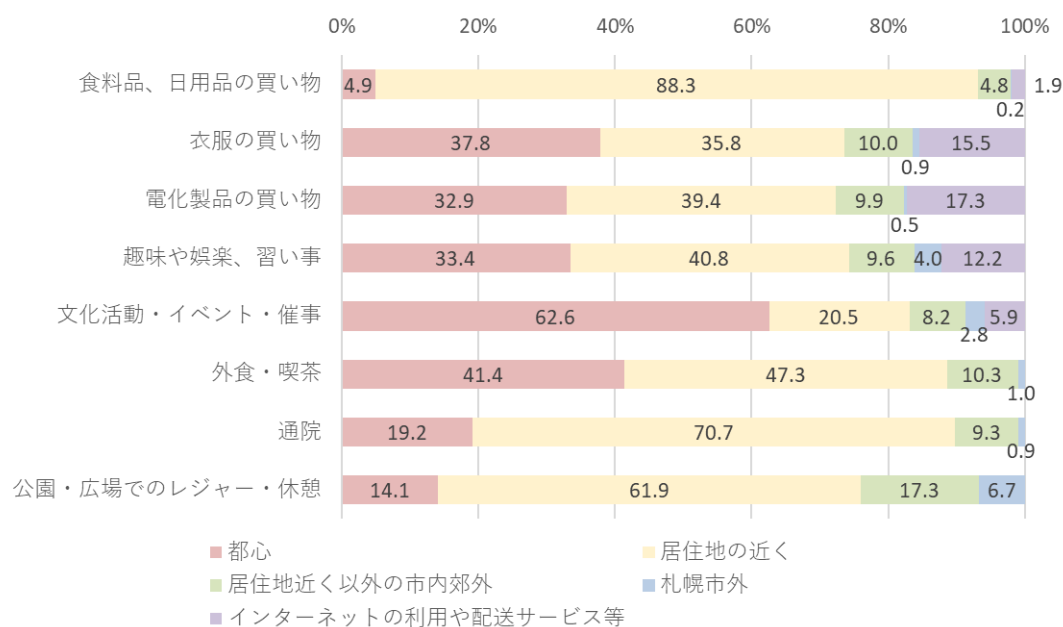
「買い物」並びに「友人・知人との待ち合わせ」は男性に比べ女性の回答率が高く、20歳代以下及び60歳以上で回答率が高くなっている。

		回答者数	買い物	外食・飲み会	映画・演劇・コンサートなどの鑑賞	友人・知人との待ち合わせ	特に目的はないうるが
全体平均		785	68.0	58.1	13.4	19.4	14.3
性別	男性	425	62.8	63.5	13.6	14.4	15.8
	女性	360	74.2	51.7	13.1	25.3	12.5
年代	20歳代以下	165	71.5	64.2	12.1	24.2	16.4
	30歳代	141	68.8	57.4	14.2	17.0	17.0
	40歳代	181	66.9	58.0	9.4	16.6	16.6
	50歳代	159	62.9	59.7	12.6	14.5	8.2
	60歳代	100	72.0	51.0	24.0	25.0	12.0
	70歳代	39	66.7	46.2	10.3	25.6	15.4

■ 平均値+5以上 ■ 平均値+3~5未満 ■ 平均値-3~-5未満 ■ 平均値-5以下

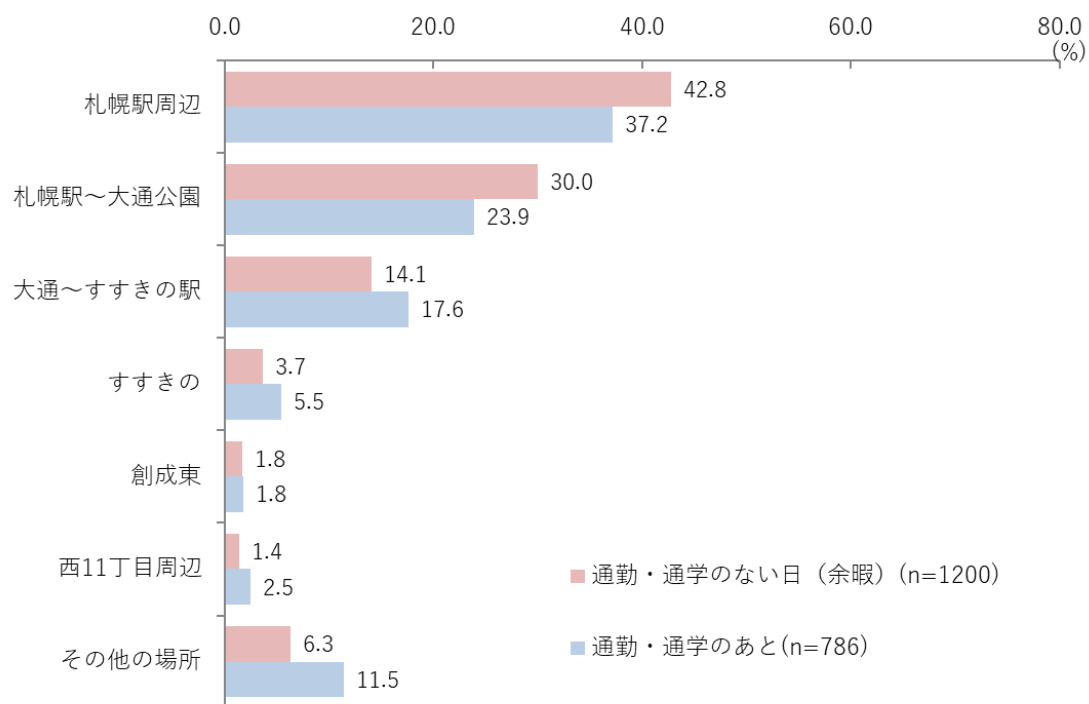
⑧活動する場所【単数回答】

活動場所として都心が選択された割合は、「文化活動・イベント・催事」で最も高く 62.6%、次いで「外食・喫茶 (41.4%)」、「衣服の買い物 (37.8%)」、「趣味や娯楽、習い事 (33.4%)」、「電化製品の買い物 (32.9%)」などの順となった。



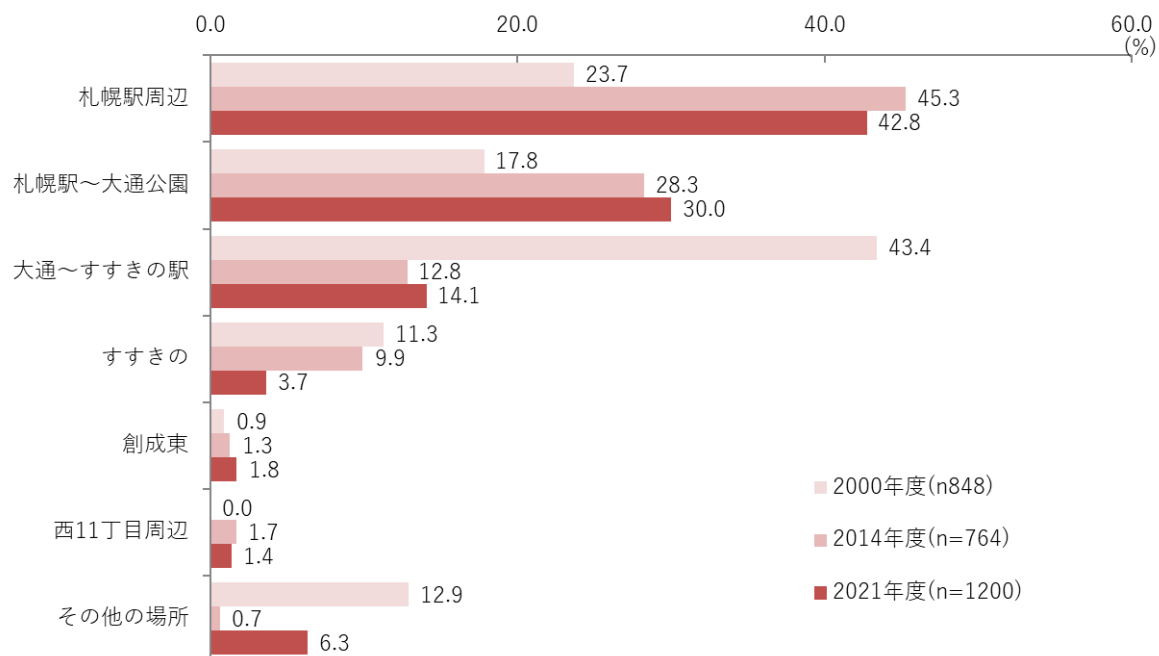
⑨都心で過ごす場所【単数回答】

余暇、通勤・通学後とも「札幌駅周辺」の回答率が最も高く、次いで「札幌駅～大通公園」、「大通～すすきの駅」の順となった。



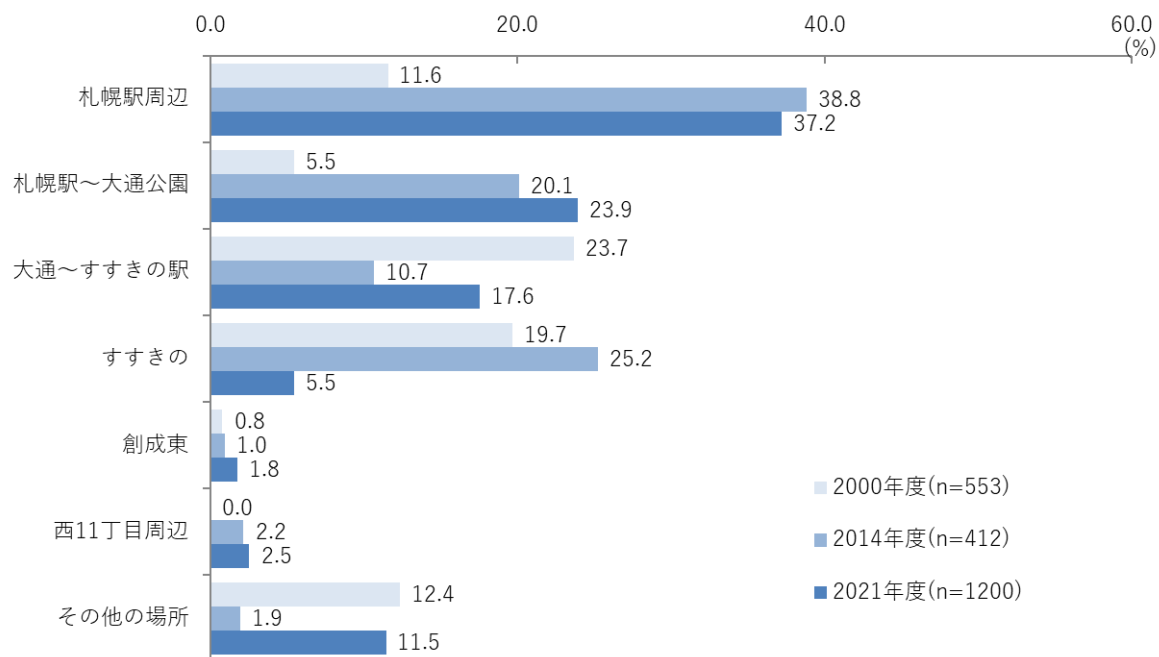
(過年度調査比較：余暇に過ごす場所)

上位3つのエリアについては、2014年度調査と比べ大きな変化はみられない。すすきのについては、過年度調査より減少がみられた。



(過年度調査比較：通勤・通学後に過ごす場所)

「札幌駅周辺」については、2014年度調査と比べ大きな変化はみられない。「札幌駅～大通公園」、「大通～すすきの駅」では前回調査より増加がみられる。「すすきの」は大幅な減少となった。

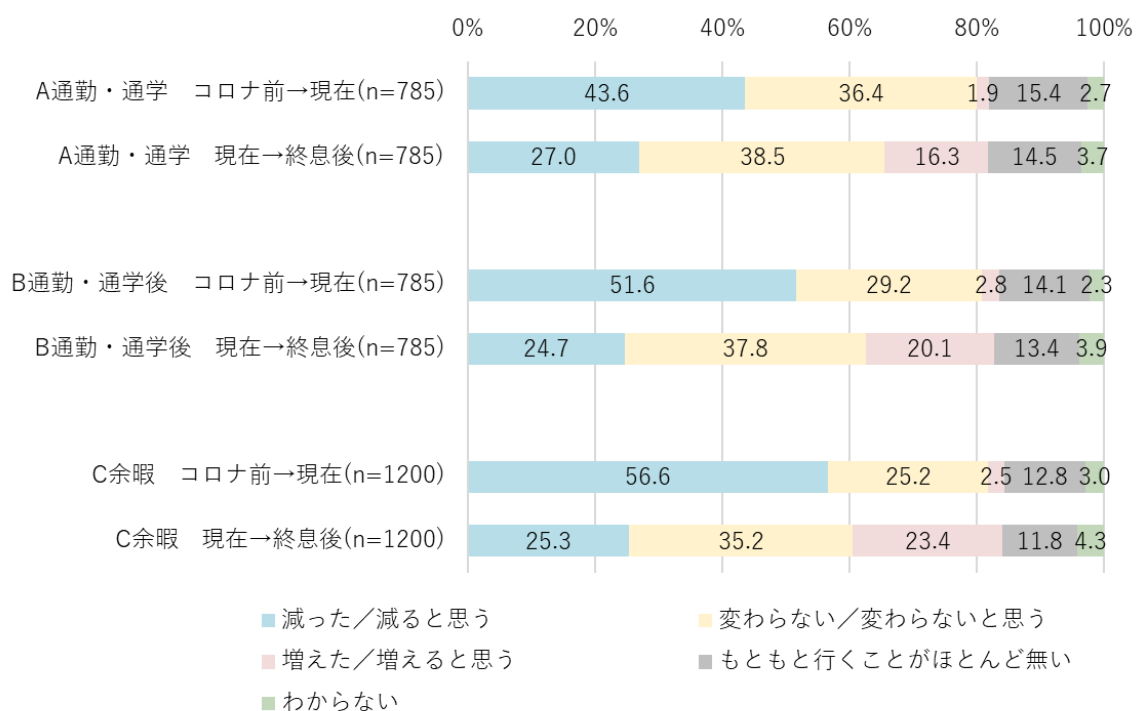


⑩新型コロナウイルスの影響【単数回答】

新型コロナウイルスの影響で都心を訪れる頻度が「減った」割合は、A 通勤・通学で 43.6%、B 通勤・通学後で 51.6%、C 余暇で 56.6%となった。

一方、新型コロナウイルスが終息したあとの予測としては、都心を訪れる頻度が「減ると思う」の割合は A～C いずれも 25%前後だった。

「増えると思う」は A 通勤・通学では 16.3%、B 通勤・通学後では 20.1%、C 余暇では 23.4%となり、いずれも「減ると思う」を下回っている。



3) 都心の印象・まちづくり

①現状の評価【単数回答】

各項目について、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合を合わせたものを以下に示す。

回答率が最も高いのは「10.建物の更新が進んでいる」及び「19.公共交通を利用して都心へ行きやすい」で75.5%、次いで「9.札幌らしさを感じる街並みがある(75.1%)」だった。

逆に、回答率が最も低かったのは「4.災害に強いまちだと感じる」で23.1%、次いで「5.地球環境にやさしいまちだと感じる(24.5%)」、「1.都心内で車の移動がしやすい(26.2%)」などの順となっている。

